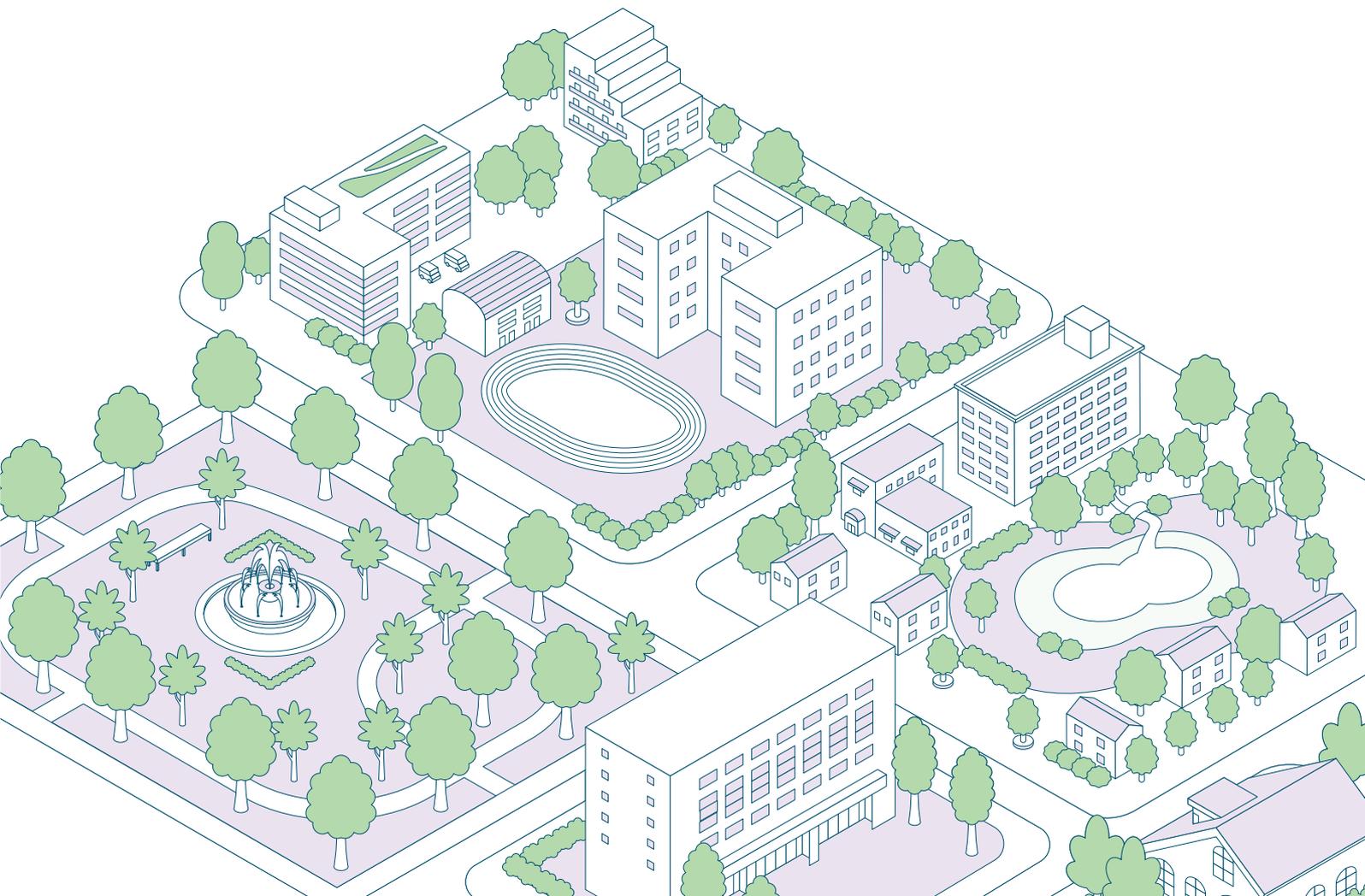


---

# ANNUAL REPORT 2025

MITSUBISHI MEMORIAL FOUNDATION  
FOR EDUCATIONAL EXCELLENCE

---



## Contents

理事長挨拶 ..... 1

### Chapter 1 財団活動報告

- 2 助成事業の展開  
助成カテゴリー一覧／各カテゴリーの相関
- 3 2025年度の助成状況
- 4 2025年度助成カテゴリー
- 6 2023～2025年度採択案件所在地マップ
- 8 プラットフォーム事業の推進 交流会開催
- 9 みらい育成アワード2024
- 10 第3回理系プロッサム開催
- 11 「三菱みらい育成財団 高校生MIRAI万博」開催

### Chapter 2 助成先活動報告

- 12 座談会「探究学習の現在地と未来へのアプローチを語る」  
中村怜詞氏(島根大学)×伴場賢一氏(一般社団法人 Bridge for Fukushima)  
×藤村祐子氏(東京学芸大学)
- 18 カテゴリー1 福井県立勝山高等学校
- 19 カテゴリー1 兵庫県立神戸甲北高等学校
- 20 カテゴリー2 一般社団法人 Girls Unlimited Program
- 21 カテゴリー3 独立行政法人国立高等専門学校機構 長岡工業高等専門学校
- 22 カテゴリー4 公立大学法人 埼玉県立大学
- 23 カテゴリー5 株式会社 3in

Chapter 3 2025年度助成先一覧 ..... 24

Chapter 4 会計報告／財団概要 ..... 36



## 理事長挨拶

三菱みらい育成財団は、三菱グループ創業150周年を記念して、2019年10月に設立されました。VUCA<sup>※</sup>の時代を生き抜き、未来を切り拓く人づくりを目的に、次代を担う若者の育成を目指す教育活動への助成と、ネットワークづくりや情報発信を通じ、その成果を社会に波及させるために活動しています。

三菱グループ各社が100億円を10年間にわたり拠出するこの活動は、高校生を中心とする15～20歳の若者たちを対象とする我が国の教育及びそのプログラムの一層の充実の助けになればとの思いから始まりました。

財団設立直後に起きたコロナ禍の時期も、関係する皆さまのご協力とご支援により活動を続け、2025年度までの助成先は延べ468機関、参加者総数は26万名に及んでいます。また、高校・大学やNPO法人等多様な助成先と3カ年の助成期間が終了した「アルムナイ」が直接意見交換や情報共有を行える定期的な交流会を運営し、改善点・課題への対応経験など、知恵と行動を共有できるネットワークづくりの場も提供しています。

一方で、今までとは別次元の速度と規模と複雑さで進化していく人工知能(AI)への対応、世界的な合意形成が難しい気候問題やエネルギー・資源問題などの難題及び政治・経済の分断化に私たちは直面するとともに、長期的な社会・経済の構造転換の渦中にいます。

このような大きな変化の時代であればこそ、国々の総合力が問われますが、その中でも安全で安心な社会や良き風土を持続的に支えていくための根幹である教育の重要性はさらに増していくと思います。高校、大学、教育事業者等の皆さまはもちろんのこと、企業や社会の全ての人々が教育に各自のベストを尽くし、より良き社会を紡いでいくことが真に求められています。私たち財団も微力ではありますが、全力を尽くして参りますので、ご理解とご指導を賜りますよう、お願い申し上げます。

※ VUCA: Volatility(変動性)、Uncertainty(不確実性)、Complexity(複雑性)、Ambiguity(曖昧性)の頭文字をとったアクロニム(頭字語)。一般的に、先行きが不透明で将来の予測が困難な状態を指す。

一般財団法人  
三菱みらい育成財団 理事長

宮永 俊一



## 助成事業の展開

当財団の主軸となる取組みが「助成事業」です。次世代の人材育成を目的として、助成対象者やプログラムの参加者等に応じ、以下の5つのカテゴリーに分けて助成を実施しています(詳細は4~5ページをご参照ください)。いずれの助成カテゴリーも、1案件あたり原則として3カ年の助成を行う点が特徴となっています。

### ● 助成カテゴリー一覧

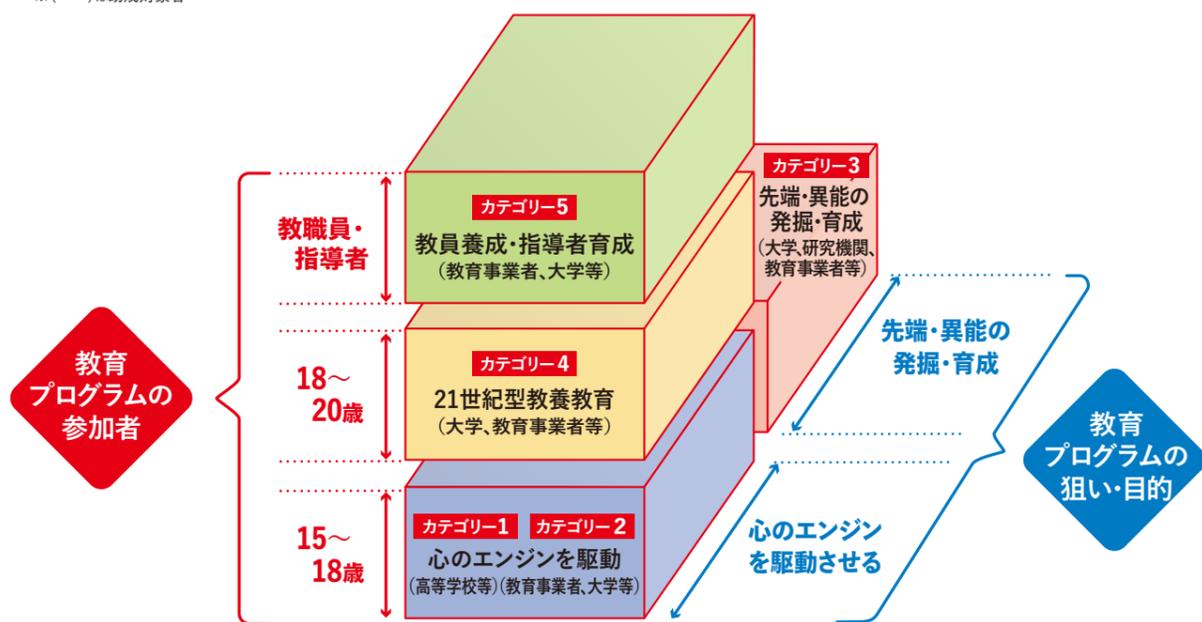
カテゴリー	プログラム	助成対象者	プログラム参加者
カテゴリー1	高等学校等が学校現場で実施する「心のエンジンを駆動させるプログラム」	高等学校等	高校生等(15~18歳)
カテゴリー2	教育事業者等が行う、より先進的、特徴的、効果的な「心のエンジンを駆動させるプログラム」	NPO・株式会社他 教育事業者、大学等	高校生等(15~18歳)
カテゴリー3	卓越した能力を持つ人材を、早期に発掘・育成する教育プログラム「先端・異能発掘・育成プログラム」	大学、研究機関、NPO・株式会社他 教育事業者等	高校生等(15~18歳) <sup>※1</sup>
カテゴリー4	大学・NPO等で行う、「21世紀型 教養教育プログラム」	大学、NPO・株式会社他 教育事業者等	大学1・2年生相当(18~20歳) <sup>※2</sup>
カテゴリー5	「主体的・協働的な学習(心のエンジンを駆動させる学習)を実践できる教員養成・指導者育成プログラム」	大学、研修機関、NPO・株式会社他 教育事業者等	高校教員・指導者

※1 カテゴリー3のアントレプレナーシッププログラムの参加者は、高校生に加え、大学1・2年生も対象とします。

※2 カテゴリー4は、大学1・2年生対象のプログラムに加え、3・4年生を対象とした、専門教育と並行して実施する、学問領域横断の教養教育プログラムも対象とします。

### ● 各カテゴリーの相関

※( )は助成対象者

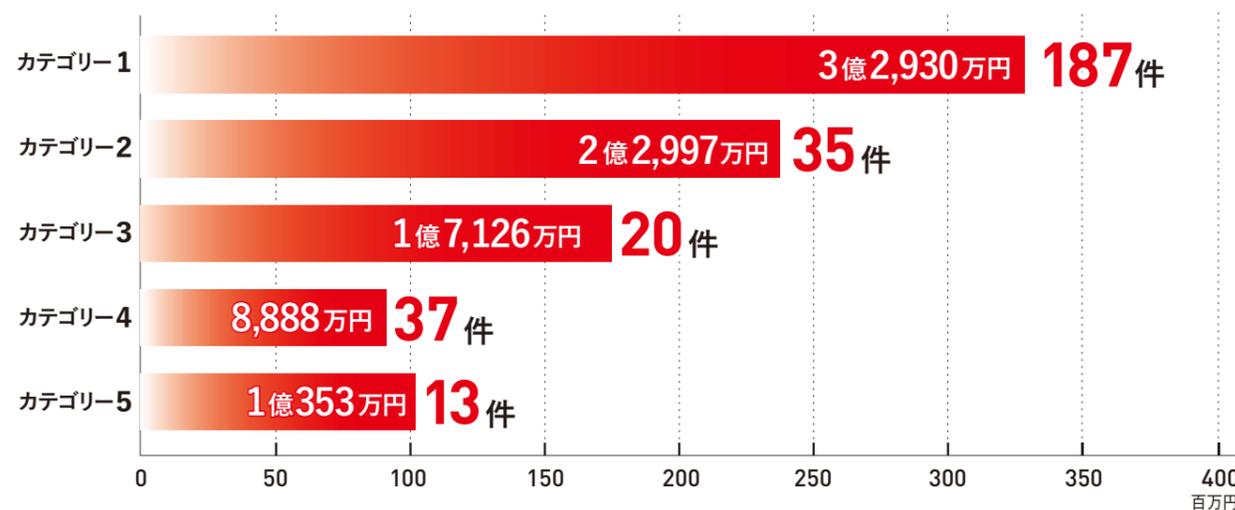


## ● 2025年度の助成状況

### ■ 2025年度の応募・採択件数

カテゴリー	応募	採択	カテゴリー	応募	採択
カテゴリー1	180件	57件	カテゴリー4	52件	10件
カテゴリー2	123件	9件	カテゴリー5	45件	4件
カテゴリー3	34件	4件			

### ■ 2025年度の助成件数・助成額(継続案件を含む)

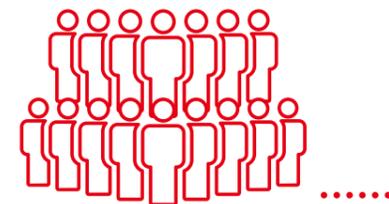


### ■ 2025年度の カテゴリー1の助成先

全国 **47**  
都道府県

### ■ 2025年度の 全カテゴリーの対象者数

約 **137,600** 人



## ● 2025年度助成カテゴリー

### カテゴリー1 > 高等学校等が学校現場で実施する「心のエンジンを駆動させるプログラム」

#### ■ プログラムの形態

・総合的な探究の時間や教科等、教育課程の一環として、原則として、学年の生徒全員を対象として行うもの

・内容は生徒の実態に応じて設定し、学習領域や教育手法は自由

■ 期待する活動イメージ(全ての活動が含まれている必要はありません)

・主体的・協働的な学習(課題／研究テーマの発見から仮説設定、検証、解決・解明までの一連の流れを生徒が自主的に取り組む)プログラム

・多様な価値観に基づき思考や発想を出し合いながら創造的な活動や探究的な活動を行うプログラム

・学外(企業、大学・研究機関、他校、地域等)との連携や、学校・地域に定着させるための体制や仕組みの整備も含まれると望ましい

#### ■ 習得・向上を期待する資質・能力

思考力や基礎的な能力に加えて、プログラム後も生徒が継続的に心のエンジンを駆動させ、将来、社会参画・問題解決していくために必要となる資質・能力の習得・向上を期待

#### ■ 助成対象者／プログラム参加者

高等学校等／高校生等(15～18歳)

#### ■ 金額

年間200万円/校を上限とする。ただし、プログラム参加者が100

名以下の場合、及びプログラム対象学年が1学年のみの場合は、年間100万円/校が上限

#### ■ 助成期間

1年間(初年度は7月から9カ月)。取組みの定着を目的に原則3カ年まで(成果報告の内容次第では、継続助成しない場合もあり)

#### ■ 他団体からの助成有無

他団体(自治体、各種法人等)から同一プログラムへの助成金を受けていても応募可能です。ただし、SSH、WWL、普通科改革支援事業、その他当財団の助成と趣旨が大きく重なる(と当財団が認める)文部科学省の事業等に採択され、同省から資金支援を受けているプログラムは対象外です。DXハイスクールに応募・内定している場合も、原則として重ねて応募できません。ただし、DXハイスクールのうち「重点類型」(200万円加算)に採択された場合は、当財団の助成を重複して受けることはできません。

当財団の助成に応募し、または採択されて助成が開始された後も、今後新たに実施されるものを含め、文科省の事業等に応募することは可能です。ただし、SSH、DXハイスクール「重点類型」等、当財団の助成と趣旨が大きく重なる(と当財団が認める)文科省の事業等に採択され、同省から資金支援を受ける場合は、原則として当該年度以降、当財団の助成を重複して受けることはできません。

### カテゴリー2 > 教育事業者等が行う、より先進的、特徴的、効果的な「心のエンジンを駆動させるプログラム」

#### ■ プログラムの形態

・学校外または学校内で一定期間、継続的に行われるプログラム(プログラム形式)、または、広く参加者を募り、成果を競い合うプログラム(コンテスト形式)

・学習領域や教育手法は自由(例:地域・社会課題解決学習、キャリア教育、STEAM教育、国際理解教育、食文化・農林水産、伝統文化・環境・芸術等)

■ 期待する活動イメージ(全ての活動が含まれている必要はありません)

・主体的・協働的な学習(課題の発見から仮説設定、検証、課題解決までの一連の流れを生徒が自律的に取り組む)、創造的な活動や探究的な活動を行うプログラム

・学校単独では実施できない先進的または特徴的な内容(参加者間の交流や特定の属性・志向等)や手法を用いたプログラム

・助成終了後も継続実施するための体制や仕組みの整備(普及広報、自立化方策等)が含まれると望ましい

#### ■ 習得・向上を期待する資質・能力

思考力や基礎的な能力に加えて、プログラム後も生徒が継続的に心のエンジンを駆動させ、将来、社会参画・問題解決していくために必要となる資質・能力の習得・向上を期待

#### ■ 助成対象者／プログラム参加者

教育事業者(教育事業の取組み経験が1年以上あること)、大学、地方公共団体等(在外教育施設は除く)／高校生等(15～18歳)

#### ■ 金額

年間500万～1,000万円程度

#### ■ 助成期間

1年間(初年度は7月から9カ月)。取組みの定着を目的に原則3カ年まで(成果報告の内容次第では、継続助成しない場合もあり)

#### ■ 他団体からの助成有無

複数団体(自治体、各種法人等)からの同一プログラムへの助成金の有無は問いません。

### カテゴリー3 > 卓越した能力を持つ人材を、早期に発掘・育成する教育プログラム「先端・異能発掘・育成プログラム」

#### ■ プログラム参加者の将来イメージ

##### ● 先端科学の研究開発

将来、分野を問わず先端的・卓越的な基礎研究・応用研究を担う人材、パラダイムシフトにつながるような新技術や新領域の研究開発、イノベーションを担う人材

##### ● グローバル・ビジネス

将来、グローバルな企業・組織において活躍する人材、国際的な視

点で、高い志・創造力等を備えたビジネス・リーダー人材

##### ● アントレプレナーシップ(このプログラムのみ大学1・2年生も参加対象)

将来、既存ビジネス・市場等の構造変革につながるような革新的な事業などに携わる人材

##### ● 地球的課題、地域・社会課題解決

将来、国際的な機関・組織・NPO・企業において活躍する人材、地球的課題(SDGs等)、地域・課題解決などに携わる人材

### カテゴリー3 > (続き)

#### ● 芸術・クリエイティブ

将来、卓越した能力を発揮して、創造的な活動により国際的に活躍する人材

※なお、プログラム自体の卓越性に加え、飛躍的な成長が期待できる参加者の効果的な発掘方法も期待します

#### ■ 助成対象者／プログラム参加者

大学、研究機関、教育事業者等(教育事業の取組み経験が1年以上あること)／高校生等(15～18歳)、アントレプレナーシップのプログラムについては、高校生に加えて「大学1・2年生相当」も対象とする

### カテゴリー4 > 大学・NPO等で行う、「21世紀型 教養教育プログラム」

#### ■ 21世紀型教養教育 領域

・人文科学領域(倫理、哲学、宗教、歴史(近代史を含め)等)を中心に社会科学(法学、経済学、社会学等)、自然科学(数学、物理、生命科学等)を含め、これらの知識を融合させ「正解のない問い」について自分の頭で考えて、アウトプットするプロセスまで含むもの

・上記に加え、現代的な課題についても取り上げ、同様の手法で取り組むもの(AIと倫理、感染症対策、温暖化、エネルギー問題、ダイバーシティ・インクルージョン、サステイナビリティ、SDGsの課題解決 等)

#### ■ プログラムの形態

大学1～2年生向け<sup>\*</sup>に行われる教養教育において、リベラルアーツ関連領域の知識を基に、対話的手法により自己の見識を高め「モノの見方・考え方(観)」を養うもの(Critical Thinking + Writing) ※大学3・4年生を対象とするプログラムも、専門教育と並行して実施する、学問領域の横断を伴う教養教育プログラムは対象とする

#### ■ 期待する活動イメージ(例示)

・教養教育関連領域の講義と少人数対話型形式のディスカッションを繰り返すことでの自己啓発を組み合わせたもの(大人数での講義と少人数対話型の混合プログラムも対象)

### カテゴリー5 > 「主体的・協働的な学習(心のエンジンを駆動させる学習)を実践できる教員養成・指導者育成プログラム」

#### ■ プログラムの形態

大学、株式会社、NPO等の教育事業者等が行う主体的・協働的な学習を実践する指導者育成プログラムの開発及び実施。ただし、イベント等数日間の短期プログラムは除く

#### ■ 期待する活動イメージ(例示)

・探究型活動に携わる高校教員・関係者を養成・育成するためのプログラムの開発

・探究型活動の教員養成プログラムの実施

#### ■ 助成対象者／プログラム参加者

教育事業者(株式会社、NPO・社団・財団法人等、法人格を有する団体、教育事業の取組み経験が1年以上あること)、大学等／高

#### ■ 金額

年間500万～2,000万円程度。ただし1,000万円を超える採択は、限定的に運用

#### ■ 助成期間

1年間(初年度は7月から9カ月)。取組みの定着を目的に原則3カ年まで(成果報告の内容次第では、継続助成しない場合もあり)

#### ■ 他団体からの助成有無

複数団体(自治体、各種法人等)からの同一プログラムへの助成金の有無は問いません。

・大学における正式科目(講義+演習等)、複数の大学を跨ぐ活動など形式は自由(ただし、イベント等数日間の短期プログラムは除く。3カ月以上継続して行われるもの)。また、正式科目ではないパイロットプログラム等(大学外で実施する私塾のようなプログラム)も含む

#### ■ 助成対象者／プログラム参加者

大学等(大学、学部、ゼミ単位、心ある教え手(導き手)がコンソーシアムを組成する、単独で実施する形でも可<sup>\*</sup>)、教育事業者等／大学1・2年生相当(18～20歳の年齢層)、及び左記条件を満たす大学3・4年生 ※私塾(法人格は必須としない)も含む

#### ■ 金額

年間100万～800万円程度

#### ■ 助成期間

1年間(初年度は7月から9カ月)。取組みの定着を目的に原則3カ年まで(成果報告の内容次第では、継続助成しない場合もあり)

#### ■ 他団体からの助成有無

複数団体(自治体、各種法人等)からの同一プログラムへの助成金の有無は問いません。

校教員・指導者(参加者は、教員免許保有者に限定せず。高校教員を目指す人も含める)

#### ■ 金額

年間500万～1,000万円程度

#### ■ 助成期間

1年間(初年度は7月から9カ月)。取組みの定着を目的に原則3カ年まで(成果報告の内容次第では、継続助成しない場合もあり)

#### ■ 他団体からの助成有無

複数団体(自治体、各種法人等)からの同一プログラムへの助成金の有無は問いません。



## プラットフォーム事業の推進

当財団では、助成事業と並行して、助成先の皆さまに交流の場を提供する「プラットフォーム事業」の取組みにも注力しています。助成先同士が情報交換し、ネットワーク化することで、互いに気付きや学びの機会となり、グッドプラクティスが横展開されることを目的としています。3年間の助成期間を終えた「アルムナイ」にも助成先同様、プラットフォーム事業に参加していただいています。

### ● 交流会開催

助成先・アルムナイの皆様が対象とした交流会は、全国の教職員や教育に携わる皆さまが越境して自由に繋がり、創発的に学び合うとともに、新しいトライやコラボレーションを生み出す場として、財団では年4回、対面・オンラインで開催しています。

2023年度に初めて実施した対面での地域別交流会が好評を博したことから、2024年度は新規採択先の助成期間が始まった7月に、仙台・名古屋・大阪、東京・岡山・鹿児島と、全国6カ所で開催しました。対面では2025年2月8・22日にも東京で開催し、

全国からの参加者にカテゴリーや地域を越えて、交流を深めていただきました。

2024年11月22・26日、2025年4月17・25日には、平日夕方に約2時間のオンライン交流会を実施。オンラインでは、前半は助成先・アルムナイのゲストをお迎えしてのオープンダイアログ、後半は4～5人のグループに分かれてのディスカッションという形式をとっています。職場から気軽に、かつ会場キャパシティの制約なく参加可能ということもあり、延べ239人の方にご参加いただきました。

日時	地域別交流会		秋のオンライン交流会		交流会(東京)		春のオンライン交流会	
	2024年 7月20日(土) 13:30～19:00	2024年 7月27日(土) 13:30～19:00	2024年 11月22日(金) 16:00～18:00	2024年 11月26日(火) 16:00～18:00	2025年 2月8日(土) 13:30～19:00	2024年 2月22日(土) 13:30～19:00	2025年 4月17日(木) 16:00～18:00	2025年 4月25日(金) 16:00～18:00
参加者	仙台32名 名古屋21名 大阪26名 計79名	東京40名 岡山24名 鹿児島29名 計93名	60名	75名	47名	47名	51名	53名
備考	開催レポートはこちら <a href="https://www.mmfe.or.jp/news/6638/">https://www.mmfe.or.jp/news/6638/</a>		[オープンダイアログゲスト] 西大和学園高等学校(カテゴリー1) 宮城県宮城野高等学校(カテゴリー1)		開催レポートはこちら <a href="https://www.mmfe.or.jp/news/7392/">https://www.mmfe.or.jp/news/7392/</a>		[オープンダイアログゲスト] 17日…東京学芸大学(カテゴリー5) 25日…認定特定非営利活動法人 カタリバ(カテゴリー5) <a href="https://www.mmfe.or.jp/news/9224/">https://www.mmfe.or.jp/news/9224/</a>	



2024年7月20日 仙台での地域別交流会



2024年7月27日 岡山での地域別交流会



2025年2月22日 東京の対面交流会



2024年度アワードの受賞者の皆さま

### ● みらい育成アワード2024

2024年9月28日、JPタワーホール(東京都千代田区)にて「みらい育成アワード2024～知見、実践、その想いを分かち合う～」を開催しました。2023年度に採択した財団の助成先の皆さまの中から、優れた活動・成果に賞をお贈りするとともに、培われたナレッジやノウハウ、その想いを分かち合うことを目的とした会であり、当日は2023年度採択先から各1名にお集まりいただきました。

授賞式後には、グランプリ受賞団体の皆さまからの取組み事例についてのプレゼンテーション、採択先の4団体からのパネラーの皆さまによる「探究的な学びの充実に向けて」をテーマとしたパネルディスカッションを実施しました。各プレゼン、パネルディスカッション終了後には、近くの席の方々3～4人でグループを作って感想や意見などを話し合い、交流を深めていただきました。

参加者の皆さまからは「先進的な事例を吸収できたこと、教育を支援されている学校外の方々の情報を得ることができ、大きな成果があった」「課題は山積みだけれども、皆さんの思いが繋がったときに教育は大きく変わるはずという希望を感じることができた会だった」などの感想が聞かれました。

#### 受賞結果

##### グランプリ

カテゴリー1(東地区)  
埼玉県立不動岡高等学校  
カテゴリー1(西地区)  
香川県立小豆島中央高等学校  
カテゴリー2  
一般社団法人 日本金融教育支援機構  
カテゴリー3  
国立大学法人 東京農工大学  
カテゴリー4  
公立大学法人 山口県立大学

##### 準グランプリ

カテゴリー1(東地区)  
静岡県立沼津東高等学校  
カテゴリー1(西地区)  
鹿児島県立奄美高等学校  
カテゴリー2  
株式会社・リサーチ・インスティテュート  
カテゴリー4  
上田女子短期大学

##### 三菱みらい育成財団賞

カテゴリー5  
学校法人  
昭和女子大学 現代教育研究所



宮永理事長より開会の挨拶をさせていただきます



パネルディスカッションでは、(左から)京都大学総合博物館准教授 塩瀬隆之氏がモデレーターを務め、パネリストとして山梨県立甲府高等学校 高見澤圭一氏、東京学芸大学 西村圭一氏、公立大学法人 山口県立大学 池田史子氏、株式会社 roku you 下向依梨氏にご登壇いただきました



受賞者によるプレゼンテーション、またパネルディスカッション後には前後の方々とグループを作り、発表内容などについて話し合っていました

▶みらい育成アワード2024の詳細はこちら <https://www.mmfe.or.jp/award/award2024.html>

## イベント

## 第3回理系ブロッサム開催

2024年7月13日、全国の女子高校生を対象にしたオンラインセミナー「理系ブロッサム」を開催しました。理系の進路を考える女子高校生に三菱グループ各社の理系出身女性社員との対話の機会を提供する本セミナーも3回目を迎え、全国から122人の高校生に参加いただきました。

当日は宇宙飛行士として国際宇宙ステーションにも滞在した山崎直子さん、ボディシェアリング技術<sup>\*</sup>の研究と事業開発で知られる琉球大学の玉城絵美教授のパネルトークからスタート。お二人の高校時代の思い出などを伺った後、Zoom上で直接の質疑応答を行い、最後にお二人から進路選択に関するアドバイスをいただきました。

続いて、三菱グループ各社で働く理系学部出身の若手女性社員とファシリテーターとして参加した理系の大学生・大学院生、それぞれ28人に協力いただき、各4～5人の高校生と対話を行いました。

初めに社員から、学生時代にどんなことに興味を持ち、何を学んできたか、それが現在の仕事にどうつながっているかなどを語ってもらい、その後フリートークに移行。「理系を選んだら就職も理系に限られるのか」「自分が向いている理系の分野をどう確かめるか」「大学で学んだことはどう仕事に活かされるか」など、具体的な質疑応答が交わされました。講師を務めた社員には、これまでの専攻にこだわらずに仕事を選択した人もおり、「理系・文系にこだわることなく、自分が進みたい道を」という



山崎直子さん(右上)、玉城絵美(下)さんとのトークセッションの様子

言葉に大きくうなづく参加者の姿が見られました。その後、高校生はチームを組み替え、それぞれの社員との対話内容を共有。その後、別の女性社員との対話も行いました。「情報を得て、リフレクションする」ことを繰り返すとともに、さまざまな視点からの感想が受け取れるようにセミナーは進行。最後に全員で感想を共有し、3時間のセミナーは終了しました。参加した高校生にとっては、進路に関する前向きで重要なヒントを手に入れる機会となりました。

※人の体やロボット、アバターなど、ユーザー側のさまざまな身体感覚を共有して、体験を共有するための技術

協力企業:AGC、キリンホールディングス、東京海上日動火災保険、ニコン、三菱化工機、三菱ガス化学、三菱ケミカル、三菱重工業、三菱商事、三菱地所設計、三菱自動車工業、三菱倉庫、三菱総合研究所、三菱マテリアル、三菱UFJ銀行、三菱UFJ信託銀行、三菱UFJモルガン・スタンレー証券、明治安田生命保険(順不同)

▶第3回 理系ブロッサム開催レポートはこちら  
<https://www.mmfe.or.jp/special/00008/>

## 参加者の感想

- 憧れている方の話を聞いて、嬉しかったです。また、性格が対照的なお二人の話聞くことで、頑張り方は人によって変わるということがわかりました。
- 大学と就職先で分野を変えている方、幼少期からの興味で分野を決めた方など、キャリアが十人十色で素敵でした。私も自分の興味を大切に自由に進路を決めていいのだという勇気をもらいました。
- 「まずは一歩踏み出してみる」ことが大切だと思っ

た。興味のある・ないにとらわれず、広い視野でいろいろなことに挑戦していくことこそが、今後変わっていく社会の中で活躍していくために重要なことだと思った。

●イベントに参加することができて本当に幸せです。参加前は周りに理系女子があまりいないせいか、孤独感があったのですが、イベントで同志に出逢えて嬉しかったです。

## イベント

## 「三菱みらい育成財団 高校生MIRAI万博」開催

三菱グループは、2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)に、パビリオン「三菱未来館」を出展しました。それに伴い会期中の2025年7月31日に行われた「三菱パビリオンデー」の一環として、「三菱みらい育成財団 高校生MIRAI万博」を開催しました。

イベントは二つの部で構成しており、第1部「高校生たちの成果発表」では、助成対象校の高校生が学校で取り組んだ探究学習や探究活動の成果を発表。応募した364チームから選ばれた最優秀賞の6チームが日頃の探究活動の成果をEXPOホール「シャインハット」にて発表、優秀賞の14チームがウーマンズパビリオン「WA」スペースにて発表しました。

第2部では、助成対象校の高校生が個人で応募し、500名超から選ばれた60名が5人1組12チー

ムをつくり、2024年8月から3回の合宿や期間中の活動を通して、「高校生による世界への発信」をテーマに、提言やメッセージを練り上げてきました。2025年3月の発表・審査会で3チーム、特別賞として1チームを選出。その他のチームのメンバーはイベント部とプロモーション部に分かれ、本番まで「60人1チーム」を合言葉に「シャインハット」でメッセージを世界に向けて発信しました。

フィナーレでは第1部・第2部の高校生157人が舞台上がり、来場者からの割れんばかりの拍手に笑顔で応えました。

▶高校生MIRAI万博の詳細はこちらから  
<https://www.mmfe.or.jp/special/banpaku2025/>



第1部の優秀賞14チームが参加



開会の挨拶をする宮永俊一理事長



1年間取り組んできた探究の成果を発表



クオリティの高い発表に対し、満席の聴衆からは惜しめない拍手が送られた



第1部の最優秀賞の6チームが発表



第2部の発表では全員でオリジナルソングを歌うシーンも



万博の大舞台上で、1年間の想いを世界に向けて発信した高校生たち

座談会 「総合的な探究の時間」から4年目

# 探究学習の現在地と未来へのアプローチを語る

**妹背** 皆さんはそれぞれ、探究的な学びづくりに関して教職員の皆さんが学ぶ場をつくられています。現在の活動に至る、背景や経緯についてお話しいただけますか。

**藤村** 私はもともと県立高校で教員として理科を教えており、その後、県の総合教育センターで研修指導主事を務めたことをきっかけに、探究的な学びについて考えるようになりました。現場に戻ってからも授業や学級活動、修学旅行なども探究的にしたいという思いで取り組んできました。その中で、生徒たちに問うべきことを考え、それを問うことがカギになることに気がきました。こうした経験を基に、研修プログラムをつくっています。

**伴場** 私は教育の専門家ではなく、元々国際機関等で、開発援助や貧困削減をテーマに途上国で十数年仕事をしていました。東日本大震災をきっかけに故郷の福島に戻り、復興事業に携わる中で、主体的に行動を起こす高校生たちと出会い、高校生たちのPBLをインフォーマルエデュケーションの立場で支援していました。しかし、学校外の活動ではどうしても対象となる生徒数を広げられないという限界を感じ、県からもお声がけいただいたこともあって、探究コーディネーターという形で、高校の中に入って支援をしています。

**中村** 私も藤村先生と同じく、公立高校で教員をしていました。県内でも一二を争う進学校から、2013年に島根県立隠岐島前高校へ異動となりました。赴任した際に、生徒の伸ばしたい力は「主体性」「多文化協働力」「課題発見・解決力」であり、地域課題解決を通して島の将来の担い手を育てることが教育の柱である、と聞いたときは、そんな力をどうやって育てるんだ、そもそも島に縛り付けるような方針はどうなんだと、疑問だらけでした。それでも、まずは地域の人に課題を聞いて回ったところ、本気で



中村 怜詞氏  
島根大学  
大学教育センター 准教授

藤村 祐子氏  
東京学芸大学 先端教育  
人材育成推進機構 准教授

伴場 賢一氏  
一般社団法人  
Bridge for Fukushima  
代表理事

妹背 正雄  
ファシリテーター  
三菱みらい育成財団 常務理事

闘っている大人たちの存在を知って、こうした大人と一緒に頑張る生徒を育てていくことには意味があると腑に落ちました。コーディネーターの方々と探究について日々議論したこと、また生徒たちが劇的に変わっていく姿を見て、**教育によってここまで人が変わるのであれば、これまで自分が取り組んでいた教育は何だったのかという衝撃が、自分の教育観を大きく変えてくれました。**

2022年度施行の学習指導要領に盛り込まれた「総合的な探究の時間」がスタートしてから4年が経過しました。探究的な学びづくりを積極的に進める学校がある一方で、まだ手ごたえをつかめず、どう進めてよいか考えあぐねる学校も少なくありません。今、学校や教員が直面している課題とは何か。そして、それを乗り越えるために有効な取り組みとは。カテゴリ-5の分野で教員研修を展開されている3名の方に、現在の探究学習に対する考察と将来の展望について語っていただきました。(以下、敬称略)

ですが、私は研修のたびに「正解はないです、ごめんなさい」と伝えています。ある生徒でうまくいったとしても他の生徒でうまくいくとは限らない。そこで、先生方に実際に悩んでいるケースを複数出してもらって、このケースに対してどう関わるのかということ4~5人のグループで議論をするという研修をしています。議論をする中で、生徒の立場に立って生徒の考えを、また先生の考えを見える化していくこと、そして先生同士の目線を合わせておくことは大事だと考えています。

**藤村** ケースを用いるという点では、伴場さんもケースメソッドに取り組んでおられますよね。

**伴場** はい。中村さんがおっしゃる通り、生徒の背景や考えに沿ってアプローチを変えていかなければならないので、伴走に正しい答えはないと思っています。ただ学校としてどのような方針で進めるのかというディレクション(方向付け)を合わせていく必要はあると思っています。そこで、私たちはモチベーション理論を用いて、「モチベーションが全くない」「外発的動機によってモチベーションがある」「内発的動機によってモチベーションがある」という3つの状態に分けて、生徒や学校の状況を分析しています。**100%の生徒を内発的動機の状態にしていくのはほぼ不可能なので、その生徒を何割に増やしていくかという戦略を学校と共に立てていくというものです。**現実的な目標と戦略を立てていくことは、先生たちのプレッシャーの軽減になっているかと思っています。  
**藤村** 私たちのところにも、伴走をどうしたらいいのかヒントをくださいという声が届くことがありますが、事例や直接的なヒントは、ほとんど出さないようにしています。背後にある想いや生徒の実態が隠れてしまい、事例やヒントだけが一人歩きし始めることは、最終的に生徒にとってプラスにならないことのほうが多いと考えているからです。こうした

先進事例を取り入れるには  
まずは自分たちの強みを深掘りする

**妹背** 皆さんそれぞれのバックグラウンドを持ちながら、先生方が学ぶ場をつくられていると思いますが、高校で探究的な学びづくりを進めるうえで、多くの先生方が抱える課題にはどのようなものがありますか。

**中村** ここ2~3年は伴走についての相談が多いで



藤村 祐子氏

東京学芸大学 先端教育人材育成推進機構 准教授

先生方の不安に応えるには、OECDがこの5月に出した「ティーチングコンパス」の中で提唱されている、先生たちにとって重要な3つの要素being(存在)、belonging(つながり)、becoming(成長)が参考になると考えています。他者とつながることが、心理的安全性や自己効力感、先生方の成長と実践の持続可能性を高めることから、belongingを持てるような場で、自分のbeingやbecomingを見つめ直すという研修づくりに取り組んでいます。

**中村** 私は「このままやっとうまくいく学校はほぼありません」と伝え、状況を観察したうえで、教員の皆さんの不安を払拭するために事例を出す場合がありますし、あえて出さない場合もあります。

**伴場** 途上国支援の仕事では、ある国の成功事例を他の国に応用するというはよくあったんですが、中村さんがおっしゃる通り、そのまま持ち込んでも絶対に成功しないというのは教育分野でも同じですね。事例を持ち込むときに必要なのは、自分たちの強みを理解することだと思うんです。持っている強みと事例を掛け合わせれば、オリジナルよりいいものをつくれると思っているのですが、日本の学校や行政は素晴らしい活動をしているのに自分たちの強みや価値を言語化するのが苦手ですね。

**中村** わかります。これは学校というよりも日本人の文化のような気もするのですが、いいところよりも、ダメなところを見つけて改善していくということが得意な国民性なんですよ。

**伴場** ある学校で探究活動の相談を受けていたときに、目的と戦略が合っていない、強みについて繰り返し聞いたんです。なぜそのスクールミッションになったのか、卒業生はどのような活躍をされているのか、部活動では何が強いのかなどを深掘りしていくと、専門知識を持って地域に貢献している卒業生が多いということがわかったんです。「地域に貢献する人材育成」はすでにミッションとして掲げていたんですが、改めて、生徒も卒業生も地域住民もここが強みだと再認識できて、探究のテーマにしましょうとなった。そこで初めて同じようなテーマの事例を参考にしてプログラムを再構築できたわけです。

**中村** その強み・リソースを再発見するうえでは、学校内に入るけれども学校の価値観に染まっていないコーディネーターのような方たちと対話することがカギになると思っています。あとはダメなところを出すのではなく、何がうまくいっているのかを教員一人ひとりが出していき、そういう「いい問い」に出会うことも重要だと思いますね。

**藤村** 高校探究プロジェクトのワークショップでは、**どうありたいかを妄想し、それを実現するためにどうしていきたいかという対話を通して、自分たちの強みを活かして何ができるかを考え、明日からの一歩を具体的に宣言する**というポジティブアプローチも取り入れています。対話を通して、自分の考えを言語化して共有することも重要ですね。

### 教科と「総合的な探究の時間」は別物か

**妹背** 他にも「教科学習と総合的な探究の時間(以下、総探)が別々のものになりがち」という先生方の声も聞きますが、そのあたりはどうですか。

**藤村** 授業を持っていたときは、総探の目標を教科の授業でも実現することを意識していました。また効果的だったのが、教科の授業を探究のプロセスとリンクさせるという方法でした。理科の授業時に、今、仮説を立てているよね、仮説を検証するための実験を計画しているよねと生徒と確認しながら進めていくんです。そうすると生徒たちも教科の学びが探究的になっていくことを実感していくんですよ。

**中村** 多くの先生が探究のことは総探の時間内で解決しなきゃいけないと思っているのではないでしょ

うか。ロジカルシンキングや批判的思考を週に1～2時間の総探の中で身に付けるというのは無理な話ですよ。いろいろな教科の中でそうした力を身に付けて、それを創造的に使うのが総探の時間なんだと思います。

**伴場** **そもそも総探と教科をリンクさせることは必須なんでしょうか。** 私から見ると総探と教科は全く別フィールドの学習のような気がしますし、「うちは進学校じゃないから探究は難しい」と「教科が苦手、イコール探究が苦手」と捉えている学校も見られます。あと、学校内で研修をしている中で気が付いたんですが、ほとんどの学校で大なり小なり対立構造が見られるんですね。その一つが教科と探究の二重構造にあるような気もしています。教科と探究をつなげられればいいんだろうなとは思いつつも、それが先生を苦しめているんじゃないかという気もしています。

**藤村** 探究に対して先生が不安や負担感を感じている要因の一つが、**生徒の探究活動が自分の知識や経験を越えてくる部分がある点だと考えています。** 私たちは教科横断型の研修を実施しているのですが、まずは一つのテーマ、例えば「水」に対して、担当教科の視点から問いを出してもらいます。水の成分、環境問題、治水の歴史などのさまざまな視点の問いについて一緒に考えていく。その過程は子どもたちの探究の学びと同じなんだということを実感してもらうとともに、自分の範疇でも助言できる、教科とも結びつけられるということもわかってもらえるんですね。そうすると楽になれる先生もいらっしゃるんじゃないかと。

**伴場** なるほど。自分が得意な分野で対応できるし、それぞれの専門を持ち寄れば大勢で関わられるという実感を得られるというわけですね。

**中村** 私はマインドとしてつなげることが一番大事だと思っています。教科の授業内でも、他者と協働して考える、答えが出るかわからないけれども、議論したり試行錯誤してみようという営みができる環境にあることが重要です。単に生徒たちが対話していることも多いのではないかと思います。

**藤村** 常に主体的とは何か、対話とは何か、みたいなことが学級活動とか授業をする前に確認できればいいですよ。あまりにも探究探究と言われすぎて、

すでに探究疲れしている高校生も出てきてしまっています。私たちのイベントに参加してくれている高校生たちからは、「教科が変わらなければ探究も変わらない」という意見や、大学生になった子たちからは、「中高で探究をやってきたと思っていたけど、先生の立てる道筋に沿うような形に修正してやってきたことに気付いた」という声が出ています。

**伴場** 大学生になって俯瞰できるようになって、見えてしまったんですね。

### 探究の成果の質と、生徒の学びの質

**妹背** 「総合的な探究の時間」が全国的に始まって4年目となったわけですが、より良い学びづくりに向けて、どんなことに取り組むのがよいとお考えでしょうか。

**伴場** **学校がどのような段階にあるにせよ、何のために探究をやるのかという価値づけをすべきだと思っています。** 探究することによってどのような生徒を育てよう、その子たちが地域に出てどんな活躍をしてもらえるんだろうというような、先生たちにとってワクワクするような環境づくりですね。

**中村** 同感です。2022年度は探究をスタートすること自体が目的になっていたところもあって、何のために探究をやるのかということがおろそかになっていたことも多いと思うんです。**今やるべきことは教育目標の解像度を上げる、自分の言葉に置き換える**



伴場 賢一氏

一般社団法人 Bridge for Fukushima 代表理事

ということが一人ひとりの先生に必要なだと思います。例えばルーブリックを作るといことも、評価の視点を持つと同時に、どのような生徒を育てたいのかという解像度を高めるツールになると思うんです。可視化して生徒に共有しながら、育てたいのはこういう生徒だ、君はどう思っているのかということをお話し合えると効果的ですよ。

**藤村** 成果発表会での発表の質を重視しすぎる傾向があるのも気になっています。私たちは12月にプロセスを共有しようという対面の発表会をしています。12月は年度末の最終発表会の少し前なので、この時期にアドバイスがもらえる、成果が出ていなくても発表できてうれしい、悩みを聞いてほしいし、方向性を知りたいと、多くの高校生が参加してくれるんです。プロセスで自分の学びを実感できるし、なんでこの探究をしたのかという価値づけができると、生徒も先生も「探究疲れ」になりにくく感じています。

**中村** 成果の質とともに学びの質も大事という価値観をあまり先生方が共感できていないのではないのでしょうか。リフレクション(振り返り)はそうした意味で有効だと思っています。私は教育の価値観や信念が変化するきっかけについて、多くの先生にインタビューしているのですが、最も強い変化のきっかけが「生徒の変化(成長)に出会う」ことなんです。しかし、生徒の成長には気が付く先生と気が付かない先生がいて、これは何を成長と捉えるかのアンテナの違いなんです。なので、ミーティングを定期的にして一人の先生が気付いた情報をみんなで共有していけば、いろんなところにアンテナが立つようになって、多くの先生が生徒の変化に気付き、それがモチベーションアップにつながっていくと思うんです。学年会などの中に10分だけでもそういう時間を取り入れれば、先生のモチベーションも全然違ってくると思います。

**伴場** アンテナって先生の個性なので、いろいろあっていいと思うのですが、学校全体ではどこの部分を伸ばすべきなのかというアンテナは共有すべきだと思うんですよ。それが学校の文化の醸成につながるわけで。ちょっと話がそれますが、私たちは、ある高校で生徒に何か聞かれたときに「天才だな」と返すようにしていたところ、先生たちも同じような返しをするようになってきた。そうすると探究にネガティブだった先生たちもポジティブな言葉を口



中村 幸詞 氏

島根大学 大学教育センター 准教授

にすることで、次の行動もポジティブにならざるを得ない。そうするとだんだん学校全体がポジティブ思考の校風になっていくんです。

**中村** 面白いですね、それ！口癖になってしまうといいかもかもしれませんね。先生自体が面白がってほめて肯定していくことにつながるわけですね。

### 外部との協働による教職員の学び

**妹背** 皆さんが今取り組まれている教員研修の特徴や今後の展望について教えていただけますでしょうか。

**中村** 私たちが取り組んでいるコーディネーター教育は、探究学習に関わるあらゆる大人が対象なので、学校の先生だけでなく行政や企業、地域の方々、Bridge for Fukushimaさんからも毎年来ていただいています。7月から始まって約半年間研修が続くわけですが、参加された教育長の方は、最初は言葉を慎重に選んでフィルターがかかっているような発言をされるんです。でも1月になるころには、その教育長という帽子を脱いで素の言動になっているんです。それは多様な人がいて、お互い思ったことを話せるし、受け入れられる安心安全の場があるからだと思うんです。ある程度長い時間、いろんな人がいる場で研修するというのは大事なコンセプトだと思います。

**藤村** さまざまな地域の人が集まった研修という面では、私たちは広島県立教育センター主催の4回にわたる探究に関する研修を、青森県・大分県・鳥取

県・沖縄県の指導主事が一緒になって創る協働・共創プロジェクトを実施しました。皆さん、すごく楽しくてワクワクしながら進めてくださっているので「チームわくわく」と名付けているのですが、お忙しい中、なんとオンラインで年間22回もミーティングをしていたんですね。今年度は、「研修プログラム開発ワークショップ」として有志の方を募り、わくわくメンバーを核として5つのテーマに分かれて研修づくりを進めています。今は行政の壁もあり5県しか参加できていませんが、こうして「細胞分裂」すればもっと多くの県が参加できるようになると期待しています。**用意された研修ではなく、研修プログラムをつくるプロセスを学び合う場を設けていきたいです。**

**伴場** 外部から見ても、今は大きく教育が変わる過渡期であることは間違いないと感じています。今日の皆さんの話を聞いていても、テクニカル面ではなく、ヒューマンスキルを伸ばすことに重点を置くべきなんじゃないかという思いを新たにしました。しかし**教育界だけで閉じてしまうのではなく、外部と融合する役割が今後必要になると考えています。**そこでBridge for Fukushimaでは、校長先生を引退された方にスタッフになってもらって、研修をしていただく予定です。ケースメソッドも私がするよりもずっと引き出しがあると思うんです。こういう方と協働していきたいと考えています。

**妹背** 本日の座談会を振り返っての感想をお聞かせいただけますか。

**藤村** OECDのティーチングコンパスの図では、中心にアンカーが描かれています。今日さまざまなプロフィール・立場の皆さんとの対話を通して、自分の大事にしていることを言語化し、共有して価値づけしたことで、私のアンカーをまたしっかり深く下ろすことができたなと実感できました。

**中村** 教科と探究のつながりについて話しているときに、伴場さんが「そもそも必要あるのか」と質問されたじゃないですか。私はああいう問いかけがすごく好きなんです(笑)。同じような価値観で共通言語で語っていると心地はいいけれども、終わった後何も残らないんですよ。そうではなくて、「そういう視点ってあるよね」と出合えることがとても大事なことで。お二人とは共通点があれば、考え方の違いもあったけれども、それが自分を振り返るきっかけになる。今日はそのきっかけとなる問いにたくさん出会えたなと感じています。

**伴場** 私も本当に勉強になりましたし、こういう場が日本全国でたくさんできればいいなと思い、そのためには何をしなければいけないのかなという思いに至りました。一つは私たちの取組みのエビデンスがまだまだ足りず、先生方に対する説得力も足りないのかなと。そうした視点を持っていかなければという課題を頂いたと感じています。

**妹背** 今日はいろいろなお話をお聞かせいただき、ありがとうございました。

2025年7月13日 東京・丸の内にて



2023年度  
カテゴリー

## 1 福井県立勝山高等学校

中高接続による地域に根ざした持続可能な「勝山型新教育プログラムK-program」の構築  
～社会に出て輝き続ける人材の育成～3年間の個人探究を  
促進する「仕掛け」

2022年度、福井県立勝山高校で新たに設置された探究特進科は、普通科の学びを基盤にしつつ、「総合的な探究の時間」を普通科の約2倍に拡充。基礎と応用が一緒に学べるような専門的な科目を配置している。普通科の生徒も、教科横断型の授業を行うなどの仕組みが整えられており、生徒全員が「探究」に関わる環境を実現している。

同校の探究活動は3年間を通じた個人探究。1年生ではテーマ決めのために、大学教員によるリレー講座や地元企業によるキャリアガイダンスなどの機会の中で自らの興味・関心を掘り下げつつ、KJ法やマインドマップなどの取組みを通して探究基礎力を身につけ、秋ごろに教員との面談を経てテーマを決めていく。3年間の個人探究を進める中では特徴的なイベントが三つ設定されている。1・2年生の科やクラスの枠を超えて行われる「ラウンドテーブルI」では、1年生はテーマ設定、2年生は探究の進捗について話し合う。その4カ月後に開催される「ラウンドテーブルII」は市や企業、大学、卒業生が参加し、外部の視点を取り入れた議論が行われる。探究企画部の部長を務める野坂智裕先生は、「ラウンドテーブルIでは、先輩が先輩からのアドバイスを、先輩は後輩に向けて探究を発表することで、お互いのモチベーションアップを図っています。ラウン

ドテーブルIIでは外部の意見を取り入れることで、自分の考えを深めたり整理し直すきっかけとしています」とその狙いを話す。そして3年間の探究活動の集大成が、7月に行われる3年生の発表の場「学びの祭典」だ。「外部との接点を多く設けている他、学年毎のイベントやロングホームルームでも対話を重視しており、生徒たちも堂々と自分の意見を発言するようになっていきます」と橋本将宏教頭が話すように、こうした活動の中で、生徒は他者との関わりを通じて自らの探究内容を磨き上げ、学びを社会に発信する力を養っている。

もう一つ特徴的なのは生徒の自主活動時間「勝高タイム」、通称KTだ。探究特進科では週3時間、普通科では週4時間が割り当てられ、フィールドワークや外部コンテストの準備、教員が開講する講座への参加など、生徒たちは思い思いの活動に取り組む。KTでの支援方法については、常に教員間でも議論が交わされているという。青木慎恵校長は、「何のためにKTを、ひいては探究活動を行うのか、これでいいのかというモヤモヤ感を持ち続け、教員間で繰り返し話し合うこと自体が大切なプロセスだと考えています」と話す。

二つのアプローチで  
生徒の成長を可視化

探究活動の評価については、自前のルーブリックを活用するとともに、生徒間の相互評価にAIによる補正を加

えたアセスメントツール「Ai GROW」を導入。ルーブリックでは、生徒が自己評価を行い、教員との面談を通じて振り返りを行う。一方、アセスメントツールは生徒の探究力を数値化し、個人やクラス全体の変化を可視化する役割を果たしている。こうしたデータは、生徒の成長を客観的に把握するだけでなく、探究活動の振り返りや教員による指導にも活用していると、堂森峰春先生は話す。「2024年度に卒業した3年生の経年変化のデータを見ると、教員が感じていた成長が数字として出てきており、アセスメントツールのデータは、生徒の成長を裏付けるエビデンスとして非常に有用だと考えています」

同校の敷地内には、2027年度より市内3中学校が統合した新中学校が開校予定であり、中学校と連携した6年間の探究プログラムを構築中だ。野坂先生は、「中高の生徒が身につけるべき力を段階的に設定し、学びの目標を明確化することで、中学での探究が高校での探究にスムーズに移行できる仕組みづくりに取り組んでいます」と話す。

2022年度に探究特進科を設置して以来、さまざまな施策を導入してきた同校。2024年度には探究特進科の第一期生が卒業し、「考えたり、それを人に伝えることが当たり前になる生徒が多く、後輩も先輩たちの『考え抜く』姿勢を受け継いでくれていると感じています」(堂森先生)、「ありがちな探究の枠に収まらず、自分の興味にまっすぐ向き合った突き出した探究が多く、この経験は将来の財産になってくれたと思います」(野坂先生)と、この3年間、教員が手探りの中で構築してきた探究プログラムの手応えを語る。青木校長は「これまでの積み重ねをさらにブラッシュアップし、中学校との連携を大きな原動力として、地域一体となった学びのコミュニティを築きたい」と、中高6年を通じた新たな学びの構築に意欲を見せる。



2025年7月に3年生による発表の場「学びの祭典」が開催された。祭典には、市役所や企業、大学、OB・OGの他、勝山市内の中学3年生すべてを招待。中学生との交流の場となった。



2025年2月には1・2年生を対象にした「ラウンドテーブルII」が行われた。外部の方だけでなく、勝山市の中学2年生が見学に訪れ、中学校の先生方もアドバイザーとしてテーブルに参加。

2023年度  
カテゴリー

## 1 兵庫県立神戸甲北高等学校

生涯探Cue時代を生きる世代の社会創出力育成キャリア教育プログラム

将来のキャリアを段階的に  
イメージできる講演会へ

2025年1月30日、神戸甲北高校は総合学科発表会を開催。日頃から探究活動に協力いただいている大学関係者や地域の関係者、保護者を招いて区のホールで実施するのは昨年度に続き2回目となる。今回も有志の生徒たち40人が企画・運営を行い、1～3年生たちが同校のキャリア探究プログラム「K(甲北のK)シリーズ」を含む多様な授業の成果を発表した。

3年間を通じた「Kシリーズ」のうち、1年生のプログラム「K-Basic」では、「自分を磨く/社会を学ぶ」をテーマに講演会や職業人インタビューなどを通して、人間関係形成力や課題発見力を養っている。2年生の「K-Standard」では6つのゼミに分かれ、地域や大学、専門機関と協働しながら探究活動を実施。3年生の「K-Advanced」では、これまでの探究活動を基礎論文としてまとめたり、進路を意識したディベートや小論文に取り組んでいる。

総合学科設置校である同校では、多様な選択科目が設定されており、将来を見据えた科目選択が重要になってくる。そのため、「1年生の初期段階でしっかりキャリアイメージを持ってもらうため、講演会や職業人インタビューなどのきっかけ(Cue)づくりを重視しています」とKシリーズを主導する久保淳平先生は話す。「ただ講演会を“受けっぱなし”にしないよう、2024年度は『段階的にロールモデルを踏ませる』ことを意識しました」。まずは同校を卒業したばかりの大学1年生が高校3年間について話し、次に社会人10年目や大学院生の方々、その次は社会人10年目で活躍されている方々や起業家の皆さんに仕事や生き方について語っていただき、それらの講演会を聞いた1年生は年度末に「X年後の自分」をテーマにキャリアデザインプレゼンを行った。2023年度にも自



「遊びを通して防災を学ぶことができるのか?」というテーマに取り組む生徒たちが、2024年10月に神戸電鉄鈴蘭台駅の駅ビルで開催された地域イベント「えほんで防災」にて、防災のワークショップを実施。「小さな子どもたちが避難所で楽しめるイベント」について考えるチームもサポートとして入り、一緒にイベントを盛り上げた。

週に1回行われている教員によるプロジェクトチームの打ち合わせ。「教員が何かを提案したときに、承認されやすい雰囲気になってきて、学校全体としての意識の統一を図るという点でもプラスに働いていると感じています」と久保先生は話す。



分の将来について語るスピーチを行ったが、全体的に同じような内容が多かったの比べ、今回は具体的かつ多様な内容が多く見られた。「お互いの発表に刺激を受けたようで、生徒同士がキャリアを考えるうえでのロールモデルになったと思っています」(久保先生)

また、2年生にも変化があったと久保先生は話す。「2023年度は教員が外部との接点を担うことが多かったのですが、2024年度は生徒が外部のプログラムに自ら申し込んだり、大学にアポを取ったりなど、積極的に外部との接点を取りに行く傾向が顕著になりました。自主性・自発性が大きく伸びたといえ、しっかり考えたうえで次の行動に移っていることも見て取れました」

生徒、教員を変える  
キーワード「ゆとり」

こうした生徒の成長や変化を促進しているのが、学校側の柔軟な運営体制だ。Kシリーズに関しては、手を挙げた教員14人がプロジェクトチームを作って企画・運営を担い、週1の打ち合わせを通して、生徒の動向を踏まえながら、ブラッシュアップを図っている。1年生の講演会についても、「キャリアを段階的に見せるストーリーを反映したらどうか」という教員のアイデアにより変更。2年生のゼミについても進路の傾向などを踏まえて毎年ゼミ編成を行っている。教員内でも外部講師

をお呼びしての研修会を企画・実施するなどの動きが出てきているという。

こうした運営体制の中心となっている久保先生が、生徒、教員、自分自身に対して意識していることが「ゆとり」だ。「ゆとりがないときは生徒も教員もアイデアが出てこないですね。かと言ってゆとりをつくるにはどうしたらいいかという答えは明確には出せていませんが、例えば発表会を外部のホールで実施することも私としてはゆとりを生み出すための一つの策。体育館で実施すると教員の準備が大変になる。ハード面の準備を取り払って、運営は有志の生徒たちにゆだねる。運営をしたい生徒と発表する生徒の役割分担も明確に分けられ、生徒たちにもゆとりが生まれる。教員についても、生徒とのやり取りが得意、ワークシート制作が得意など、各々が輝く役割があって、適材適所で分担し、隙間を私が埋めていく。そのような体制になれば一人に過剰な負担がかかる状況はなくなり、生徒も教員もうまく回るんじゃないかと考えています」(久保先生)

生徒も教員も大きく変わり、年々進化を見せる同校。こうしたゆとりを生み出す工夫、気配りがその変化に大きく影響していることは間違いない。2025年度には、同校と神戸北高等学校との統合により、兵庫県立神戸総合高等学校が設置されており、新しい高校の今後の発展にも期待が高まる。

2024年度  
カテゴリー

2

## 一般社団法人 Girls Unlimited Program

Girls Unlimited Program:体験格差を解消するエンパワメントプログラム

キャリア教育と自己省察で  
女子中高生を支援

日本の女子中高生を対象に、自己省察とライフプランニングを中心としたエンパワメントプログラムを展開している一般社団法人Girls Unlimited Program(以下、GUP)は、2017年に在日米大使館の助成事業としてスタート。2023年に法人化し、現在は東京家政大学人文学部の並木有希教授、大阪大学全学教育推進機構の金森サヤ子教授、玉川大学教育学部の大谷千恵教授の3名が代表となって運営している。プログラム開始時はキャロライン・ケネディ氏が駐日米大使を務めていたこともあり、日本のジェンダー状況や女子中高生へのキャリア教育に対する関心が高まっていたと並木教授は話す。「私はフルブライト奨学金を受けて米国に留学していた経験があり、同じような米国留学経験者(アルムナイ)が集まって、大使館の提案を受けてプログラムに参加・運営することになりました」

一般社団法人GUPは、キャリア教育ワークショップ「Girls Unlimited Program」、講演会やセミナー、コミュニティ活動(ネットワークング)の3つの柱を中心に活動を展開している。そのうちキャリア教育ワークショップ「GUP」は、オンラインと対面を併用して、以下の5つのセッションで構成されている。

**セッション1:**お互いを知るために、参加者やメンター同士の自己紹介を行う  
**セッション2:**対話を通して「現在の自分の立ち位置」を深く考える  
**セッション3:**メンターの経験を聞き、さまざまな考えやキャリアに触れる  
**セッション4:**これまでの話を踏まえて自分の未来を具体的に描く  
**セッション5:**参加者同士でGUPワークショップをきっかけに頑張ったことや成長したことを報告し合ったり、ゲストがメッセージを伝える

このワークショップでは、スタンフォード大学の学生が取り組んでいる「ライフデザインメソッド」が応用されている。参加者が自分の興味や関心を深掘りし、それを基に将来の目標を描くプロセスを体験できるようなカリキュラムをベースに、同世代、大学生のジュニアメンター、社会人のメンターなど多層な年代との対話を繰り返すこと、また宇宙飛行士の山崎直子氏をはじめとした世界で活躍する多様なゲストからのメッセージで新たな視点や未知の世界への門戸を開きかけを提供していることが特徴だ。「コロナ禍で対面活動の機会が減るなどの影響を受けたのか、対話が苦手な子どもたちが増えていると感じています。その場をうまく収めることには長けているのですが、普段は本音を出すことがなかなかできない年代です。しかし、

GUPワークショップは普段とは異なる環境であり、だからこそ、新しい自分を発見できるのだと考えています。本音で話してみると楽しい、こんなことを言ってもいいんだという声もありました。中でも『こんな世界があるなんて知らなかった、悔しい』という感想を聞いたときは、中高生にとっての新しい出会いの重要性に感銘を受けるとともに、その場を提供する責任も改めて感じました」と並木教授は話す。

## 地方での展開を拡大

2024年度のGUPの活動は「体験格差解消」に重点を置いた。その理由を、「首都圏とはニーズや環境が異なる地方の中高生にこそ、多分野で活躍する人々との出会いの機会を増やす必要があるのでは」という意見が以前から大使館や運営側からあがっていました。財団の助成を得たことをきっかけに、地方展開を加速させることになりました」と並木教授は話す。全国にいるアルムナイや各地で活動する団体、男女共同参画センターなどの協力を得て、名古屋と札幌で実施。2024年12月には、東京・名古屋・札幌の参加者が集まり、合同で報告会が行われ、参加者からは高い評価を受けた。

2025年度は、東北大学DEI推進センター、せんだい男女共同参画財団、仙台市と連携、また認定特定非営利活動法人キッズドアに協力を仰いで、仙台での活動を予定している。「各地域で活動している団体や教育機関と協働して、子どもたちも保護者もより参加しやすいネットワークづくりを全国で展開していくことも一つの目標です」(並木教授)

単なるキャリア教育プログラムではなく、参加者が自分自身を見つめ直し、次の一步を踏み出すための場でもあるGUPワークショップ。参加者一人ひとりが自分の可能性を信じ、未来を切り拓く力を育む場として、これからも進化を続けていく。



GUPは一般に開かれた講演会やセミナーなども随時開催している。2024年10月には、大阪にてフィンランド国立教育研究所のKristof Fenyvesi氏と同研究所研究員の矢田匠氏をゲストに迎えて「フィンランド式STEAMワークショップ」を開催した。



札幌で開催されたGUPのセッション4の様子。この日は、「今こうなったらいよいよと思っている未来」「その未来とは全然違うけれども、これでもいいと思う未来」「お金の心配が全然なくすべて自由に決めていい未来」と3つのプランを描いた。選択肢を3つ描くことで、「どんな自分も悪くない」という安心感と、「こんな未来もありえる」という新たな発見を得られた様子が見られたという。

2024年度  
カテゴリー

3

独立行政法人  
国立高等専門学校機構

## 長岡工業高等専門学校

地域DXエバンジェリスト創出プログラム～高専生がデザインする地域未来～

高専生が開発した  
プロダクトを社会実装

本プログラム(通称「Ent-X<アントエックス>」)は、地域企業のDX課題解決プロジェクトを全国58の高専に呼びかけて開発し、実際に企業へ導入する超実践型プログラムだ。同校では、2015年度から地域企業の課題に取り組む「JSCOOP」というPBLを実施し高い評価を受けてきたが、実装にまで踏み込むことはできなかった。しかし、アントレプレナーシップ関連やDX推進プラットフォームの運営で定評のあった株式会社イードアの協力を得ることで、学生のアイデアを世に送り出す試みが可能になった。企業との連携や拠点の活用に関しては、JSCOOPから引き続き長岡市の協力が得られ、元高専生が創業したスタートアップ企業には、身近なロールモデルとしての呼びかけやその後の伴走をお願いすることで、本プログラムを実施する環境が整った。

2024年度は、課題抽出企業としてプロバスケットボールチームの新潟アルビレックスBBと連携し、同社から「蓄積されたデータの可視化」「ファン一体の応援コンテンツの自動化」「アリーナでの廃棄物削減」という3つのテーマが出された。

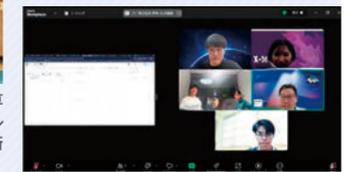
9月14日、1stステージとしてオンラインによる説明会とレクチャーを実施。12高専85人の応募があり、うち9高専50人が参加。そこから6チームが2ndステージにエントリー。プレゼン審査を経て3チームがプロトタイプ開発に進んだ。開発に当たっては、DXサービスや技術メンターがサポートし、新潟アルビレックスBBとは社会人がBtoBビジネスで顧客へのヒアリングを重ねるプロセスと同様のシチュエーションを提供し、開発が進められた。また各チームには20万円の開発資金が用意され、コスト管理と運用の実践的スキルも身につけられるようにした。

2025年3月9日、成果報告会が開催され、第1回Ent-X地域企業DX賞とEnt-X賞に「チーム一関高専」が選ばれ



2025年3月9日に開催された成果報告会では、チーム一関高専が開発した「ビッグデータ活用型 AIマーケティング支援ツール FlexiModule」が第1回Ent-X地域企業DX賞とEnt-X賞を受賞。新潟アルビレックスBBから開発資金を頂き、実装に進むことになった。

DXサービスや技術メンターからのサポートは、開発スケジュール確認や開発を進めるに当たっての考え方、法令等の注意事項から、開発における悩み相談まで広範にわたった。



た。開発ツールは、AI技術を活用して顧客データの活用、販売戦略の最適化、データ解析業務のコスト低減などを実現するもので、新潟アルビレックスBBからも「ぜひ実際に導入したい」という感想を頂いた。プログラムに参加した学生たちからは「大人との真剣なビジネス体験ができ、他の高専生との交流により多くのインスピレーションも得て、貴重な経験だった」という声が聞かれた。

受賞したプロトタイプは、現在実装に向け、汎用性も考慮に入れたベータ版のリリースを目指している。「他の企業にも、このツールを使ってもらい検証を行っています。高専の教育という枠を超えて、どこまで実践的なアントレプレナーシップ教育を実践できるかを検証することは、社会的意味があると考えています」とイードアの石川翔太新潟支社長は語る。

Ent-Xでは、開発したツールの社会実装に当たり、「学生自身の起業」伴走するDXサービス企業に知財権を帰属させサービスを提供」「課題を出した企業が内製化して運用」「スーパーイノベーションスクール(SIS)において実装」という4つの選択肢がある。SISとは、ビジネスへの挑戦を望む中学生から大学生の受け皿として、2024年に長岡市に新設された会社で、開発した学生を役員として就任させ、得られた収益に応じた報酬が退任時に受け取れる仕組みだ。チーム一関高専は自身での起業を選んだが、

「今回選出に漏れたものも含め、企業が関心を持ってくれるアイデアがあれば、SISを使って実装の道を模索したい」と村上祐貴長岡高専校長補佐は語る。

全国6万人の高専生と  
各地の企業を結びつける

長岡高専だけでなく、全国の高専を巻き込む理由に関して、「長岡市だけではインパクトが小さい。日本中に6万人もの高専生がいるのですから、Ent-Xによって刺激を得た学生同士のコミュニティが広がり、地域課題解決への挑戦が各地方で起これば、地方創生に繋がるはず」と語る村上校長補佐。そのためにもEnt-Xというプログラムを、もっと全国区にしたいと考えている。現在、全国の高専からEnt-Xの共催校を募っていて、既に7高専から承諾を得た。さらに共催校を増やすために直接説明にも回っているという。

参加した学生の変化や成長については「現状のアントレプレナーシップ教育では学生の起業家マインドの醸成に力を入れていて、学生たちの起業に対するマインドも変化してきました。Ent-Xは、さらに一歩踏み込んで、企業が抱える課題の解決策の事業化ですから、かなり厳しい言葉を投げかけられる場面もあります。ブランディング期間と考える助成期間中に全国の高専がつながり、各高専の枠を超え、地域の企業を巻き込んで課題解決に取り組む形になってほしい」と村上校長補佐は語る。

2024年度  
カテゴリー

4

## 公立大学法人 埼玉県立大学

多層的・分野横断的な批判的対話実践プログラム—教員・SA・学生の協働で知を織り上げる—

複数の教員が同時参加する  
実験的なプログラム

埼玉県立大学は保健医療福祉学部  
の1学部看護、理学療法、作業療法、  
社会福祉子ども、健康開発の5学科を  
持つ。プログラムの実施主体は、5学  
科全てを対象とする共通教育科の教養  
科目担当者会に所属する専任教員陣で、  
2年次以上の発展階層科目において行  
われている。「1年次の学びを生かし、  
総合的な視野で教養を考えるのが発展  
階層科目。教養科目担当者会は多様な  
分野の教員で構成されているので、複  
数の教員が同時参加する仕掛けを考え  
ました」と浅川泰宏教授は語る。

2019年の開始当初は、メインの教員  
とサポートする教員という役割分担で  
始まったが、批判的対話実践プログラ  
ムとして整備された2024年度からは、  
「それぞれの視点やアプローチの違い、  
多様性をより発現できるような進め方  
を意識するようになりました」と、担  
当者会会長の高村夏輝准教授は語る。

現在の授業では、「教員による導入  
講義」「別領域の複数の教員による対話」  
「学生間対話」「グループの意見発表と教  
員のリプライ」というサイクルを90分  
の授業内で2~3回繰り返す。「教員に  
よる対話」では、例えば「死とは何か」  
というテーマに対し、生物学と哲学の  
教員が各々の視点から意見を述べ合う。  
教員の特性や専門性を活かしながら、  
一つのテーマに対して複数の視点から

のアプローチができること、また批判  
的な議論とはどのようなものなのかを  
学生に見せるという点に大きな特徴が  
ある。その後の学生のグループワークは  
4人1組で行われ、結果をA3サイズの  
ホワイトボードに書き込んで提示。手  
書きというアナログ手法を取り入れた  
のは、デジタルツールならば個別化さ  
れてしまう作業を複数人で共有するた  
めの工夫。1回の授業に参加する学生  
は約100人で、30弱のグループに分  
かれるが、座席は毎回ランダムに設定  
され、普段あまり顔を合わせたことが  
ない者同士がグループワークに臨む。

批判的議論を含む  
対話型授業の実践

批判的議論を含む対話型授業の必要  
性について高村准教授はこう語る。  
「医療・福祉の現場では、医師を中心  
として看護師をはじめ多職種連携が  
必要で、意見の違いが出てくることも  
あります。その違いを埋めて合意を形  
成するには、相手の考えだけでなく、  
自分の考えも批判的に考え、課題を立  
体的に理解して創造的解決を図る訓練  
が必要です」。現代の若者は調和を重  
んじる点では優秀だが、他者への批判  
に関しては意識的に避ける傾向にある  
という。自分の意見を伝え合い、それ  
ぞれが納得できるプロセスを形成する  
場として、本プログラムを体験しても  
らいたいのだという。

教員同士のやり取りに関しては、あ

まり細かな打ち合わせはせず、「ライ  
ブ感を大事にした運用を考えていま  
す」と浅川教授。科目責任者以外は、  
空いている教員が適宜参加することも  
多いが、一つの答えに誘導せず、学生  
が自由に討論できる授業を心がけてい  
る。教員にとっても一人で言う授業と  
は違うアプローチが必要で、良い経験  
になっているという。

教員同士、学生同士のランダムな組  
み合わせで進められる授業は、学生た  
ちにとって新鮮に映っているようで、  
また、そうした教員同士のやり取りを  
手掛かりにして、学生同士のディス  
カッションも進んでいるようだ。

目下の課題の一つが、授業をサポート  
するSA(チューデントアシスタント)  
の不足。現状では、受講生約100人  
に対して5人程度のSAがついているが、  
その2倍程度は必要だという。「SAに  
対しては、もっと事前準備に手間と時  
間をかけ、安心して授業に参加でき  
るようにしたい」と語る高村准教授。SA  
の授業における活躍が、学びの連鎖  
としてつながっていけばと望んでいる。

履修した学生のアンケートからは、  
「教員に正解を求められている授業で  
はないことが新鮮だった」「自分の意  
見を素直に言っていることが分かり  
安心した」という声と共に、「積極  
的にディスカッションできるようにな  
った」「相手に伝わるような表現を心  
がけるようになった」など、発信力の  
向上を窺わせるコメントも見られる。

現在行われている「人間の探究」「生  
命の意味」「埼玉研究」の3科目に加え、  
2027年にはもう一つ科目を新設する  
予定だ。「最低1科目は増やして、1学  
年約400人の全員に教養教育の中で1  
回はこの形の授業を受けてもらいたい  
と考えています」と語る小林憲生教授。  
対話型の授業こそ、同大学に相応しい  
という手応えを感じているという。本  
プログラムを経験した卒業生が、今後  
の地域医療に好影響を与えることが期  
待される。



本プログラムの科目「人間の探究」の授業風景。別領域の複数の  
教員によって進められる画期的な授業だ。

履修する学生は4人1組でグループワークを  
行い、教員とSAがアドバイスする。

2024年度  
カテゴリー

5

## 株式会社3in (サンイン)

先生による探究学習・起業家教育体験プログラム

「地域に貢献できる人材を育て  
たい」との思いが起業の原動力

株式会社3inは、2022年の設立以来、  
「教育×産業創出による地域活性」を  
ビジョンに掲げ、地域の自治体や大学、  
企業との連携のもと、起業家育成や産  
業振興に取り組んでいる。同社を立ち  
上げた岩本隆行氏は、起業の経緯につ  
いて「地域に貢献できる人材づくりを  
目指し、地元である山口県内の高校で  
22年にわたって教鞭を執ってきました  
が、多くの教え子たちが、地元にあ  
愛着を持ちながらも卒業後は都会に出  
ていってしまう現状にもどかしさを感じ  
ていました。彼らが地元に戻ってこら  
れるよう、地元で仕事をつくり、その  
仕事で地域に貢献できる仕組みが必要  
だと考えました」と語る。

活動の一環として、県内15校で探  
究学習・起業家教育を支援するなかで、  
岩本氏は教員へのサポートが急務だと  
感じたという。「探究学習を担当する  
先生方は、教科書もマニュアルもなく、  
そもそも自身が探究を学んだ経験もな  
いなかで、まさに手探りで指導法を試  
行錯誤されています。そこで、先生自  
らが探究学習を体験し、同じ体験をし  
た先生方同士が議論することで、教育  
現場で実践するための気付きやヒント  
を得られる場をつくりたいと考えまし  
た」(岩本氏)

この構想を山口大学教育学部や山口  
県教育委員会に提案したところ、「ぜ  
ひやってほしい」との賛同が得られ、  
いかに教育現場で探究学習に対する課  
題意識が高まっているかを実感したと  
いう。こうして、両者の協力・後援  
と三菱みらい育成財団の助成を得て、  
2024年度から「先生による探究学習・  
起業家教育体験プログラム」、略称「先  
タン」がスタートした。

探究学習を全校的に  
推進する力を身につける

本プログラムのキーワードは「巻き



2024年度の「先タン」の授業の様子。教員の「心のエンジン」を駆動  
させるべく、マインド面を重視。参加者同士の対話の機会を増やし、同  
じ志を持った教員同士のコミュニティづくりを図っている。



2025年7月の「先タン」の様子。この日は教育  
者としての「志」を表現するプログラムを実施。  
マンダラチャートのワークでは、深い思いを吐き  
出し、言語化したうえで、現場での行動変容に  
結びつくためには何が必要かを列挙した。

込む力」。「探究学習では、周囲の先生  
や社外の協力者を巻き込んでのチーム  
づくりが成否のカギを握ります。しか  
し実際には、探究学習に消極的な先生  
も少なくありません。これは決して教  
育に対する熱意の差ではなく、探究学  
習に対する理解や関心の差だと考えま  
した。そこで『先タン』では、先生方  
が自ら探究学習を実践し、その意義を  
体感してもらうことで、学校内におけ  
る探究学習の牽引役として自信を持っ  
て発言し、周囲を巻き込んでいけるよ  
う意識しました」(岩本氏)

2024年度は、5回の対面研修と2回  
のオンラインセッションを実施。参加  
者はインプットとアウトプットを繰り  
返すことで、探究学習の実践に必要な  
知識と経験を培っていった。結果と  
して100人近くの教育関係者がエン  
トリーし、延べ300人以上が参加。担  
当教員だけでなく、管理職や、教育委員  
会、教員志望の学生など、参加者の多  
様さも本講座の特徴といえよう。

参加した教員からは、「これまで感  
覚的に実践してきた探究授業に理論的  
な裏付けができた」「他校の先生との  
学び合いで勇気づけられた」など前向  
きな声が上がるとともに、「先タン」  
で得られた学びを各校に持ち帰り、実

践することで、さまざまな成果が出て  
いるという。現役教員が「先タン」を  
通して、管理職・行政職・大学教授・  
学生など多様な層と議論できる点、ま  
た学校外の情報をリアルタイムで把握  
できる点を活かし、後援者である県教  
委と共に、新たな教員向け研修に取り  
組んでいる。

また助成期間終了後の自走も見据  
え、オリジナル教材の販売による収益  
化や、連携企業および後援自治体の増  
加にも取り組んでいくという。『先タ  
ン』を含めた各プロジェクトの運営に  
加えて、全国各地での講演にも積極  
的に参加することで、全国の教員関係  
者とのネットワークが築かれつつあり  
ます。そこでの対話から、探究学習に  
関する教育現場の課題は全国共通で  
あり、当社の取組みは他の地域でも  
ニーズがあるとの確信が得られました」と岩  
本氏が語るように、すでに都内や山梨、  
静岡など、各地で本プログラムの全  
国展開の準備が進みつつあるという。

今後、同社の取組みが継続、拡大す  
ることで、多くの教員の「心のエンジ  
ン」が駆動し、全国の教育現場で探  
究学習の充実や、その実装による地  
域社会の活性化へとつながっていくだ  
ろう。

## カテゴリー

1

2023

2024

2025

都道府県順

採択年度	組織名	所在地	教育プログラム名	採択時対象者数	助成額
2023	北海道ニセコ高等学校	北海道虻田郡	「シビックプライドを持ったグローバル人材の育成」 ～ニセコと世界の境界線を溶かしていこう～	72名	110.5万円
2023	北海道更別農業高等学校	北海道河西郡	「課題解決能力の育成と地域活性化を目指す農業学習の展開!!」 ～更別村との連携を基軸としたプロジェクト学習～	90名	100万円
2024	北海道札幌西高等学校	北海道札幌市	総合的な探究の時間(WRAPs)次世代リーダーへの轍づくり ～さあ、冒険しよう。問いが人を突き動かし、問いが世界を変える～	960名	200万円
2024	北海道平取高等学校	北海道沙流郡	ダイバーシティ&インクルージョンを学ぶ高校 ～科目「アイヌ文化」と多様性、共生・協働をテーマとする 「探究学習」の二つを軸として～	31名	100万円
2024	北海道函館西高等学校	北海道函館市	「函西 Well-being共創プロジェクト」～志高く、未来を創る～	706名	100万円
2025	北海道札幌月寒高等学校	北海道札幌市	探究学習プロジェクト「BEING ALIVE」	960名	200万円
2025	北海道札幌東高等学校	北海道札幌市	自ら人生を切り拓く力を育てる「東高シンカ」	960名	200万円
2025	北海道札幌南高等学校	北海道札幌市	札幌の総探(minaminQ)大学進学後も通用する専門的な 研究への第一歩～メタバースを活用した探究し続ける心の 涵養と世界に貢献する人材の育成～	949名	200万円
2023	青森県立三本木 農業恵拓高等学校	青森県十和田市	三本木農業恵拓高等学校普通科 「さんのう探究-地域共創プログラム開発」(総合的な探究の時間)	200名	200万円
2023	青森県立大湊高等学校	青森県むつ市	グローバル社会における「防災教育」～防災を日本の文化に～	1,300名	200万円
2024	青森県立百石高等学校	青森県上北郡	青森県立百石高等学校普通科 「百探-百石の上にも三年探究プロジェクト」 コーディネーターと外部人材を活用した探究活動の活性化	200名	200万円
2025	青森県立三戸高等学校	青森県三戸郡	三戸みらいキャンパス～地域の、そして自分自身の「みらい」を 「三戸郡」というキャンパスで描こう～	85名	100万円
2025	青森県立木造高等学校	青森県つがる市	木造(きづくり)・人づくり・地域づくり ～「MAP(Mokko Asumiru Project)」～	431名	200万円
2024	岩手県立盛岡第一高等学校*	岩手県盛岡市	「M探」Plus Science and English	840名	120万円
2023	宮城県宮城第一高等学校*	宮城県仙台市	オール宮城で育てる「ワクワクする」未来を拓くグローバル人材の育成	560名	200万円
2023	宮城県仙台二華高等学校*	宮城県仙台市	北上川/東北地方、メコン川/東南アジアをフィールドとした 世界の水問題解決のための取り組み	480名	200万円
2024	宮城県小牛田農林高等学校	宮城県遠田郡	“農林魂”で未来をひらく!～自分らしく生きる力をつけるために～	375名	200万円
2024	宮城県仙台南高等学校	宮城県仙台市	向陵Plearning～ともに創る未来への一歩	400名	200万円
2024	学校法人 常盤木学園高等学校	宮城県仙台市	未来を拓くアントレプレナーシップ教育「スタートアップ」	474名	182.3万円
2024	宮城県宮城野高等学校*	宮城県仙台市	「未来構想ゼミナール」による自他の「しあわせ」のための 「未来デザイン力」育成プログラム	720名	200万円
2024	宮城県気仙沼高等学校*	宮城県気仙沼市	海を素材とするグローバルリテラシー育成 ～世界を舞台に豊かでたくましく活躍できる人材を目指して～	620名	200万円
2023	秋田県立新屋高等学校	秋田県秋田市	新屋高校SSC(SDGs×STEAM×Career)プロジェクト	160名	200万円
2023	山形県立山形西高等学校	山形県山形市	嚶鳴クリエイティブ・ラボ ～グローバル人材の育成:友と学び共に未来を創る～	398名	200万円
2024	山形県立小国高等学校	山形県西置賜郡	白い森未来探究学～地域に誇りと愛着をもち、 グローバルな視点で地域創生に挑む人材の育成～	50名	100万円
2025	学校法人新庄学園 新庄東高等学校	山形県新庄市	プレゼンテーション演習プログラム ～SDG's/地域課題 答えのない課題に自分なりの答えを～	328名	200万円

採択年度	組織名	所在地	教育プログラム名	採択時対象者数	助成額
2023	福島県立白河旭高等学校	福島県白河市	白河旭校生が年間500の地域貢献を生み出すプログラム ～生徒が地域貢献を通して学びを深め、 社会人として将来どうありたいのかを考える～	320名	197万円
2023	福島県立石川高等学校	福島県石川郡	いしかわ WORK & LIFE 探究プログラム	105名	120万円
2023	福島県立只見高等学校	福島県南会津郡	未来に繋げる「地域振興」プロジェクト	60名	83.6万円
2023	福島県立猪苗代高等学校	福島県耶麻郡	フィールドは猪苗代町! 実践から始まる 「やってみよう!おもしろそう!」をカタチにする探究プログラム	57名	100万円
2024	福島県立湖南高等学校	福島県郡山市	地域創生に関わる日本一の学校を目指して～地域産業の継承と年次縦 断の探究活動とおした、社会に貢献できる人材の育成～	60名	100万円
2023	茨城県立土浦第三高等学校	茨城県土浦市	土浦市から宇宙まで探究のフィールドは無敵だ!	475名	100万円
2025	茨城県立竹園高等学校	茨城県つくば市	竹園探Qプロジェクト ～竹のように地域に根ざし、世界へ伸びる学び～	637名	200万円
2024	栃木県立那須高等学校	栃木県那須郡	地域社会の未来を担う人材育成のための 「那須高校・魅力化プロジェクト」	78名	99.4万円
2024	栃木県立佐野東高等学校	栃木県佐野市	啓(Kei)～未来をひらく～	589名	200万円
2025	宇都宮海星学園 星の杜中学校・高等学校	栃木県宇都宮市	「チェンジメーカーズ・ダイアローグ ～概念を問い、共に創る未来～」	350名	200万円
2025	栃木県立真岡高等学校	栃木県真岡市	<至誠>探究プログラム～STEAM教育による探究学習を通して、 自己の在り方を考え、より良い解決とより良い社会の実現を目指す～	571名	200万円
2023	群馬県立中央中等教育学校	群馬県高崎市	FEWC(Frontier Education for World Citizenship)プログラム	253名	200万円
2023	群馬県立太田女子高等学校	群馬県太田市	総合的な探究の時間「切り拓く未来」 ～自らの力で未来を切り拓き社会を牽引するリーダーの育成～	720名	200万円
2024	群馬県立伊勢崎高等学校	群馬県伊勢崎市	iTanQ～伊高の探究が世界をつなぐ～	867名	200万円
2024	群馬県立高崎北高等学校	群馬県高崎市	“未来を拓く”あらが探究 ～問いを磨き、生徒も教師も学び続ける学校～	480名	200万円
2025	群馬県立伊勢崎清明高等学校	群馬県伊勢崎市	「新たな可能性の発見」～自分の可能性と地域社会の可能性を 発見し、その実現のために探究する力【SEIMEI力】の育成～	595名	200万円
2025	群馬県立尾瀬高等学校	群馬県沼田市	群馬県立尾瀬高等学校 KIZUKU!プロジェクト	144名	200万円
2023	埼玉県立不動岡高等学校	埼玉県加須市	学際的な「科学的素養」を持った「明日の世界を創造する 品格あるリーダー」を育成する未来探究プログラム ～生徒自らが主役となり実践する課題研究～	1,080名	200万円
2023	国立大学法人 筑波大学附属坂戸高等学校*	埼玉県坂戸市	高校生Social Change Student養成プログラム ～自分の学びをデザインしつづける力の育成を目指して～	160名	136.7万円
2024	埼玉県立秩父高等学校	埼玉県秩父市	「つなごう!ちちごう!」 ～学校と地域をつなぐ 秩父高校地域協働プログラム～	372名	200万円
2025	さいたま市立 大宮国際中等教育学校	埼玉県さいたま市	3G Project(Grit・Global・Growth)	934名	200万円
2025	埼玉県立坂戸高等学校	埼玉県坂戸市	S-Field 一坂高総探プロジェクト	713名	200万円
2025	千葉県立佐倉南高等学校 定時制夜間部	千葉県佐倉市	健康まちづくりプロジェクト	51名	100万円
2025	千葉県立袖ヶ浦高等学校	千葉県袖ヶ浦市	袖ヶ浦市魅力度アッププロジェクト×教科等横断的課題研究	832名	200万円
2025	麗澤中学・高等学校	千葉県柏市	心の力を育み、未来を創造する知恵と逞しさを身に付ける 体験型探究学習プログラム「自分(ゆめ)プロジェクト」 ～「その先」をイメージしながら築く「自分」～	511名	200万円

採択年度	組織名	所在地	教育プログラム名	採択時 対象者数	助成額
2023	国立大学法人 筑波大学附属高等学校*	東京都文京区	筑波スタディ ～「伝統」と「連携」がひらく、社会へむかう探究の扉～	480名	200万円
2023	昭和女子大学附属 昭和高等学校	東京都世田谷区	文系・理系を問わない女子高校生の DS・プログラミングチャレンジと理工系キャリア支援 ～データサイエンスを中心に据えた探究活動プログラムの開発	200名	200万円
2023	東京都立三鷹中等教育学校	東京都三鷹市	三鷹中等教育学校の「探究(人生設計学)」	320名	200万円
2023	東京都立国分寺高等学校	東京都国分寺市	ぶんじの探究活動	640名	200万円
2023	東京都立八王子東高等学校*	東京都八王子市	『八王子東グローバル探究プロジェクト ～世界と地域で協働する力の育成～』	640名	200万円
2024	東京都立小金井北高等学校	東京都小金井市	未来を創るCOKITA	500名	200万円
2025	東京都立新宿高等学校	東京都新宿区	全員指導者たれ 総合的な探究の時間 「新宿学」を通じた持続可能な未来を創るリーダー育成 地域・企業探究から個人探究へ	640名	200万円
2023	神奈川県立柏陽高等学校	神奈川県横浜市	探究を深化させる2年間一貫した体系的な探究プログラム	636名	100万円
2024	神奈川県立 横浜瀬谷高等学校	神奈川県横浜市	総合的な探究の時間「未来共創プロジェクト」を教育課程の中核とする カリキュラムマネジメント～「持続可能な社会の創り手として、 これからの社会で活躍できる資質・能力」の育成を目指して～	951名	200万円
2023	新潟県立柏崎高等学校	新潟県柏崎市	「エネルギー、環境、海」をテーマとした 海外高校との国際共同課題研究	400名	100万円
2025	新潟県立中条高等学校	新潟県胎内市	中条高校未来探究 ～「中条高校地域アカデミー」を中核とした六花プラン～	140名	200万円
2025	新潟県立津南中等教育学校	新潟県中魚沼郡	生徒が自走する「津南妻有学」 ～地域・社会でのアクションとリフレクションの循環により、 「夢の実現」へつなげる探究学習	171名	200万円
2025	学校法人片山学園 片山学園中学校・高等学校	富山県富山市	夢叶う未来へのKIP(Katayama Inquiry Program) ～アーギュメントを主軸にした探究活動による問題発見力・ 的確な予測・革新性の育成とその客観的評価の方法の開発～	136名	200万円
2025	富山県立富山高等学校	富山県富山市	「未来〇学」人類の過去、現在、未来そして、発展的未来を探究する ～発展的未来の貢献者の育成～	479名	200万円
2024	金沢大学人間社会学域 学校教育学類附属高等学校	石川県金沢市	ミライシコウするグローバル人材の育成 ～地域と世界に開かれた 北陸コンソーシアムの探究マインド醸成を目指して～	300名	200万円
2024	石川県立輪島高等学校*	石川県輪島市	「WAJI活(輪島活性化プロジェクト)」 特別編未来に向けて輪島を創造しよう ～輪高生(りんこうせい)による街づくりプロジェクト(街プロ)～	254名	100万円
2025	石川県立大聖寺高等学校	石川県加賀市	「聖高Nexus」が生徒の心に火をつける ～地域共創による探究支援プログラムの構築～	459名	200万円
2023	福井県立勝山高等学校	福井県勝山市	中高接続による地域に根ざした持続可能な 「勝山型新教育プログラム K-program」の構築 ～社会に出て輝き続ける人材の育成～	327名	200万円
2025	学校法人青池学園 AOIKE高等学校	福井県小浜市	高校生がぐるぐる回す「マテリアル循環社会」 ～能登半島地震を契機とした古材レスキュー活動への 正統的周辺参加～	284名	100万円
2024	山梨県立北杜高等学校	山梨県北杜市	北の杜から世界へ～高校生の力で地域活性化に挑む～	339名	200万円
2024	山梨県立甲府西高等学校*	山梨県甲府市	IBの手法を基礎とした「総合的な探究の時間」における課題研究論文の 作成とその成果の県下各高校への普及活動及び、課題論文発表大会 (n-Quest 西高探究の日)の全県開催	511名	200万円
2023	長野県立長野高等学校*	長野県長野市	Willから始まる探究の土壌づくり ～「翼プロジェクト」から広がる探究文化の醸成～	480名	200万円
2023	長野県立伊那農業高等学校*	長野県上伊那郡	チャレンジ『Inavation～伊那谷で豊かなココロとカラダを イノベーション～』プロジェクト	39名	77万円
2024	長野県辰野高等学校	長野県上伊那郡	「TATSUNOVision2030」プロジェクト 「一人ひとりの活躍が作り出す 住み続けたいまち」 &「地域に愛され必要とされる学校」を目指して!	200名	200万円

採択年度	組織名	所在地	教育プログラム名	採択時 対象者数	助成額
2024	長野県白馬高等学校	長野県北安曇郡	「ローカル・プライド」を持ち地域課題を ワクワクしながら解決できる人材を育成	142名	130.6万円
2024	長野県松本県ヶ丘高等学校*	長野県松本市	信州学からグローバル課題へー探究を実践し続ける縣陵人を育てる Kenryo Researchers Programー	970名	199万円
2025	長野県上田高等学校	長野県上田市	『いのち』を視点に統合的・全体的アプローチによって SDGsを探究する。	598名	200万円
2025	長野県長野西高等学校	長野県長野市	「地域から世界へ」未来を担うグローバルリーダーの育成 ～アントレプレナーシップ醸成プログラム～	718名	200万円
2025	長野県野沢北高等学校	長野県佐久市	共学共創コンソーシアムで構築する未来の探究校 ～野沢北探究programが育む、地域・日本・世界で輝く探究人～	600名	200万円
2024	岐阜県立恵那高等学校	岐阜県恵那市	知的なときめきから世界を変える ～社会に感動を与える探究イノベーション育成システムの構築～	400名	200万円
2024	岐阜県立加納高等学校	岐阜県岐阜市	岐阜から世界へ、世界から岐阜へ～グローバル探究実践事業(GLI)を 通じて、広い視野をもつ生徒を育成する～	560名	200万円
2023	静岡県立沼津東高等学校	静岡県沼津市	「揺籃(ようらん)	292名	200万円
2023	静岡県立榛原高等学校	静岡県牧之原市	HAFプロジェクト(HAIBARA ACHIEVING FUTURES PROJECT) ～地域と世界を結ぶ有為な人材育成～	553名	200万円
2024	静岡県立駿河総合高等学校	静岡県静岡市	地域防災コミュニティプロジェクト(LDCP) ～多様な価値観で、まちの未来創造を生徒・地域とともに～	233名	100万円
2024	静岡県立三島北高等学校	静岡県三島市	三島北型生徒エージェンシーの育成とメタ認知 ～WWLのレガシーの発展的継承～	574名	200万円
2025	静岡県立富士東高等学校	静岡県富士市	企業・大学との連携・協働によるAIの活用を含めたアカデミックな 探究を目指したプログラムの改善・充実	523名	200万円
2023	名古屋市立菊里高等学校	愛知県名古屋市	個性、自主自律を開化させるマイテマ・ マイプロジェクト追究型の探究～みんなのなぜが社会につながる みんなのなぜが未来につながる～	960名	124万円
2023	国立大学法人東海国立大学機構 名古屋大学教育学部附属中・ 高等学校*	愛知県名古屋市	文理融合教育STEAMプログラム ～知りたい・やりたい・成し遂げたい、そしてその思いを伝えたい～	360名	200万円
2024	愛知県立 犬山総合高等学校	愛知県犬山市	探究学習を軸としたカリキュラムの実践による「チェンジメーカー」の育成 ～ビジネス・デジタルの力で地域の課題解決に挑む～	480名	200万円
2025	愛知県立 愛知総合工科高等学校	愛知県名古屋市	探究型カリキュラム×情報系カリキュラムによる 実践的DX人材育成プログラム	514名	200万円
2025	金城学院中学校 高等学校	愛知県名古屋市	社会に開かれた わたしをつくるアトリエ ～つくることで、「わたし」「他者」「システム」に気づき、 Well-beingな世界を創り出す一歩を踏み出す～	444名	94万円
2023	三重県立松阪商業高等学校	三重県松阪市	生徒よし〇学校よし〇 地域・企業よし〇 「三重丸(さんじゅうまる)モデル」	440名	200万円
2023	三重県立鳥羽高等学校	三重県鳥羽市	とばっ子カンパニー ～起業体験プログラム・企業探究・地域課題解決型学習～	80名	100万円
2025	滋賀県立高島高等学校	滋賀県高島市	「インクルーシブ防災」から「地域の魅力発信」へ ～探究的な活動が高島市を動かす～	344名	200万円
2025	滋賀県立彦根東高等学校	滋賀県彦根市	Global Science の視点から持続可能な 社会を目指すイノベーション力の育成	640名	200万円
2023	京都市立紫野高等学校	京都府京都市	グローバル・シティズンシップを起動する 総合的な探究の時間を軸としたカリキュラムの共同開発	560名	200万円
2023	京都府立鳥羽高等学校*	京都府京都市	「なぜ?」を問い、社会と関わる、 社会に飛び出すグローバルリーダーの育成	840名	171.5万円
2023	京都市立日吉ヶ丘高等学校*	京都府京都市	「世界をつなぐ越境者」育成プログラム ～生徒も先生も世界に踏み出そう～	480名	200万円
2023	京都府立井手やまぶき支援学校	京都府綴喜郡	「みがくむすぶきりひろく～小学部×中学部×高等部をつなげる むすびカリキュラム～」地域(井手町)の中で光り輝く生徒の心に エンジンをかけ、未来をきりひろくやまぶきプログラム	39名	100万円
2023	京都府立宮津天橋高等学校	京都府宮津市	Safari:探究の海へ漕ぎ出せ! 学舎を越えた協働的な学びへの挑戦 ～遠隔合同授業×ICT活用×総探学習 NEW TYPEを創り出せ!～	610名	200万円

採択年度	組織名	所在地	教育プログラム名	採択時 対象者数	助成額
2024	京都市立京都奏和高等学校	京都府京都市	Make smile 一心のエンジンをかけるための鍵となる「笑顔」のを見つけ方	240名	200万円
2024	京都市立京都堀川音楽高等学校	京都府京都市	「人とつながる音楽家」を目指して ～音楽科の特色を活かした探究的な学びの実践～	78名	100万円
2024	京都市立開建高等学校	京都府京都市	「やってみよう」をやる」協創マインドの育成 ～地域・社会と協創する探究活動実践～	480名	200万円
2024	京都市立美術工芸高等学校	京都府京都市	「未来を切り拓く青年」育成教育プログラム ～多様性にふれ、豊かな想像力と発想力で未来を創出～	90名	100万円
2024	京都市立西京高等学校*	京都府京都市	京都発!未来の教室がある学校をめざして ～グローバルリーダーシップの育成をめざしフィールドワークを 軸とした探究プログラムの構築～	560名	200万円
2025	京都市立堀川高等学校	京都府京都市	深みにハマる!探究活動の限界を超えろ!Deep DIVEプログラム	489名	200万円
2025	京都府立丹後緑風高等学校 網野学舎	京都府京丹後市	網野学舎式PBL「SteAM-INOVation」	217名	200万円
2023	大阪府立吹田東高等学校	大阪府吹田市	吹田東高校「総合的な探究の時間」主体的に考え行動する生徒の育成 第2学年プログラム「現代社会をみつめる」	312名	134.3万円
2023	大阪府立茨木高等学校*	大阪府茨木市	IBARAMA ～「自主自律の精神」に基づき、 「高い志」と「枠を超える知性」を育む～	680名	200万円
2023	大阪府立岸和田高等学校*	大阪府岸和田市	知の三現改革プログラム	640名	200万円
2024	大阪府立桜和高等学校	大阪府大阪市	教育探究 学びのSTEAM化プロジェクト ～桜和から始める、好きから始める、私たちの未来～	240名	200万円
2024	大阪府立箕面高等学校	大阪府箕面市	VUCA時代にグローバルに活躍する! 箕面高校発、全員発掘型リーダーシップ教育。	720名	145万円
2024	大阪府立刀根山高等学校	大阪府豊中市	『トネ究』～深める探究・進める探究・広げる探究～	1,080名	150万円
2024	大阪府立水都国際中学校・高等学校*	大阪府大阪市	世界も地域も私も変わる“Suito Action Project for SDGs”	720名	200万円
2025	大阪府立泉北高等学校	大阪府堺市	2つの専門学科の協働による地域連携 「次世代のリーダー育成“絆”プロジェクト」	864名	200万円
2025	大阪府立星学園高等学校	大阪府大阪市	一人ひとりの「おもろい」を育む 対話と越境プログラム	824名	185万円
2023	兵庫県立神戸甲北高等学校	兵庫県神戸市	生涯探Cue時代を生きる世代の 社会創出力育成キャリア教育プログラム	600名	200万円
2023	兵庫県立兵庫高等学校	兵庫県神戸市	先生が変われば教育が変わる ～STEAM教育(ワクワク)と真正の学び(実社会との接点)の往還～	640名	200万円
2023	兵庫県立千種高等学校	兵庫県宍粟市	思創探究プロジェクト 地域の子が地域を育てる ～宍粟市を思い、宍粟市の未来を創造する人材の育成	100名	100万円
2024	兵庫県立須磨友が丘高等学校	兵庫県神戸市	地域のSafety Coreとしての学びを通して 自己のキャリアを育成するプログラム	720名	200万円
2024	兵庫県立長田高等学校*	兵庫県神戸市	一芸一才を活かして安全な未来都市づくりを担う アーバンクリエイター育成方策の開発	640名	200万円
2024	兵庫県立御影高等学校*	兵庫県神戸市	伸ばせ!「みかげ力」 ～外部連携を活かした生涯学び続ける生徒を育てる探究活動	947名	200万円
2025	東洋大学附属姫路高等学校	兵庫県姫路市	「わたし、まち、芽が出るミライ」略語:W.R.M「Watashi,Region,Mirai」 呼び名:ワーム、ワームに込めた意味は 「未来を耕す高校生」(ワームは土地を耕すミミズ)	308名	200万円
2025	兵庫県立阪神昆陽高等学校	兵庫県伊丹市	多様な人々が共に認め合う社会創りへの挑戦! ～「ノーマライゼーション」の視点からの「ダイバーシティ」～	550名	200万円
2025	兵庫県立小野工業高等学校 全日制課程	兵庫県小野市	OTHELLO Project ～ものづくりのこころを育み、地域と共に成長する～	446名	200万円
2023	奈良女子大学附属中等教育学校	奈良県奈良市	異なる4者との“共創”を組織することにより、未来社会に生きる 「ものづくりの心」を喚起する教育プログラムの構築とその普及	160名	99.5万円
2023	西大和学園高等学校	奈良県北葛城郡	Action Innovation Program(AIP)	150名	190万円

採択年度	組織名	所在地	教育プログラム名	採択時 対象者数	助成額
2025	奈良県立樺原高等学校	奈良県樺原市	樺高リベラルアーツ教育 ～自身と社会のwell-being向上のために～	949名	200万円
2025	奈良県立五條高等学校	奈良県五條市	～eco city 五條をめざして～ 地域コミュニティの絆と地域資源活用で深める環境と経済の教育	671名	200万円
2025	奈良市立一条高等学校	奈良県奈良市	社会に拓く“一条の探究” ～自ら思考し表現できるモノ・コトづくりの実践～	559名	200万円
2025	和歌山県立橋本高等学校	和歌山県橋本市	北極星を目指して ～Journey to the North Star～	398名	200万円
2024	鳥取県立米子西高等学校	鳥取県米子市	「みらいチャレンジ」で未来をチェンジ! ～社会とつながる探究活動で学びのイノベーション～	560名	200万円
2023	島根県立隠岐島前高等学校	島根県隠岐郡	誰もが一步踏み出すための踏み込み共創プログラム ～「踏み込み」と「振り返り」による「愛されるグローバル人材」の育成～	105名	200万円
2023	島根県立矢上高等学校	島根県邑智郡	矢高おおなん協育プログラム ～生徒が学び 地域が学び 教員が学ぶ 共同体の創造～	120名	190.8万円
2024	島根県立益田高等学校	島根県益田市	益田圏域での理数教育を発展させるための 小学校・中学校・高等学校連携プログラム	1,200名	200万円
2024	島根県立隠岐高等学校	島根県隠岐郡	小さな島だからこそできる、最先端が混ざり合うキャリア探究 ～隠岐ジオパーク研究× 実践型アントレプレナーシップ教育×越境の学び～	135名	200万円
2025	島根県立大田高等学校	島根県大田市	OHDAまるごと学びのフィールドプログラム	345名	200万円
2024	岡山県立岡山芳泉高等学校	岡山県岡山市	HOSENみらい「探究」プロジェクト	949名	200万円
2024	岡山県立岡山操山高等学校	岡山県岡山市	未来の岡山と世界のWell-beingの実現に貢献する グローバル・リーダーの育成	560名	200万円
2023	広島県立日彰館高等学校	広島県三次市	「田舎主義」～生徒の資質・能力を育成するための 地域と協働した教育カリキュラムの実践～	207名	200万円
2023	広島県立佐伯高等学校	広島県廿日市市	『オール佐伯』で学校・地域の危機を乗り越える ～総合的な探究の時間(SAEKI QUEST)を軸にした 「つながり」の創出～	85名	100万円
2023	独立行政法人 国立高等専門学校機構 呉工業高等専門学校*	広島県呉市	「0→0.1」にする主体性教育の学内外への展開	516名	200万円
2024	広島県立広島皆実高等学校	広島県広島市	「広島皆実Zest探究コンソーシアム」を通じた学校を越えた 新たな学びの創出 ～学校(Gakko)から楽広(Gakko)へ～	640名	200万円
2024	広島県立高陽高等学校	広島県広島市	MAPLE(Making active people link education) ～地域社会とBridgingし生徒をSocializeする～	475名	200万円
2024	広島市立舟入高等学校*	広島県広島市	広島、日本、世界へ届け! 舟入の「問い」! ～「問い」から始まり、「問い」で終わる舟入の「問い」立て探究～	320名	100万円
2025	広島県立賀茂高等学校	広島県東広島市	Glocal Action Program(GAP)	737名	200万円
2025	広島県立大崎星高等学校	広島県豊田郡	学びの島発 高校魅力化&島の仕事図鑑 キャリア教育の視点と教科横断的視点の融合による 教科横断的探究プログラム	44名	78万円
2025	広島大学附属福山高等学校	広島県福山市	「越境」探究学習プログラム～つながる・未来を考える～	603名	200万円
2023	山口県立山口高等学校	山口県山口市	多角的・物語的思考を育む「チーム探究」の開発	260名	100万円
2023	山口県立大津緑洋高等学校	山口県長門市	じぶんたちの力でまちの経済を循環させる ～起業家精神を身につけるプロジェクト型学習～	30名	200万円
2023	徳島県立阿波高等学校	徳島県阿波市	A-waveがつなぐ地域と未来	465名	100万円
2023	徳島県立池田高等学校*	徳島県三好市	対話による阿波池田シビックプライド探究プロジェクト	460名	200万円
2025	徳島県立川島高等学校	徳島県吉野川市	Unlock Your Potential ー多様な視点で挑む、未来への羅針盤ー 地域共創型課題解決探究による 生徒の自律と社会とのエンゲージメント強化	227名	200万円

採択年度	組織名	所在地	教育プログラム名	採択時対象者数	助成額
2023	香川県立小豆島中央高等学校	香川県小豆郡	総合的な探究の時間「榎風」	420名	200万円
2023	愛媛県立今治東中等教育学校	愛媛県今治市	令和の伊予商人 今東地域資源(自然・歴史・伝統文化)事業化プログラム	200名	99.8万円
2025	愛媛県立伊予高等学校	愛媛県伊予郡	自らの力で、自らの未来を切り拓く生徒の育成 ～地域の人・モノ・コトを活用した探Qと 社会人基礎力を活用した振り返りを通して～	569名	200万円
2025	愛媛県立三崎高等学校	愛媛県西宇和郡	せんたんプロジェクト	153名	200万円
2024	高知県立安芸中学校・高等学校	高知県安芸市	次代の弥太郎育成プロジェクト ～地域課題と向き合いグローバルな視野を持ち 地域で活躍する人材の育成を目指す～	227名	200万円
2024	高知県立高知小津高等学校	高知県高知市	「イノベーション人材」育成プログラム～地方から未来を創生～	800名	200万円
2024	高知県立山田高等学校*	高知県香美市	よってたかって「山高」探究プログラム	300名	200万円
2025	福岡県立西田川高等学校	福岡県田川市	田川探究～地域をより魅力的にするために～	250名	200万円
2025	福岡県立八女高等学校	福岡県筑後市	「ちきゅうみらいプロジェクト」	708名	200万円
2025	佐賀県立伊万里高等学校	佐賀県伊万里市	なりたい自分へ自ら道を切り開く「自走する生徒」の育成プログラム ～行政・大学・地域の連携体制の構築～	281名	200万円
2023	長崎県立壱岐商業高等学校	長崎県壱岐市	未来の起業家育成プログラム	88名	200万円
2023	長崎県立島原高等学校	長崎県島原市	文理探究科「課題研究」×普通科「地域探究」による世界と 地域の未来を創造する人材育成プログラム ～『島原高校ワクワク成長サイクル』の実現を目指して～	393名	200万円
2023	長崎県立佐世保南高等学校	長崎県佐世保市	サザンタイム～「地域から世界へ 世界から地域へ」 循環型グローバル探究プログラム～	680名	200万円
2023	長崎県立長崎東中学校・高等学校*	長崎県長崎市	「ともによき世を創る」 ～世界の平和と共生を目指し、協働・共創でイノベーションを～	840名	200万円
2023	長崎県立諫早高等学校*	長崎県諫早市	「自立し未来を創造する人材育成」	828名	150万円
2024	長崎県立猶興館高等学校	長崎県平戸市	探究が平戸・日本の未来へつなぐ ～猶興精神(自立・自発)を心のエンジンに～	256名	200万円
2024	長崎県立小浜高等学校	長崎県雲仙市	島原半島の魅力再発見プロジェクト「本校での略称:しみプロ」 ～「小浜さん」定期発行～	37名	135.3万円
2024	長崎県立口加高等学校	長崎県南島原市	対面からつながるリモート探究～最南端から最先端～	160名	200万円
2025	長崎県立五島南高等学校	長崎県五島市	ふるさと3Rプラン+Realize～地域貢献から広がる自己実現～	80名	100万円
2025	長崎県立西陵高等学校	長崎県諫早市	「進化する“西陵”で夢の実現」一校訓「自律」「進取」「友愛」のもと、 自ら主体的に、仲間と協働し、学びを深め、 将来に明るいビジョンを持って懸命に取り組む生徒の育成	711名	80万円
2024	熊本市立千原台高等学校	熊本県熊本市	フロンティアプロジェクト～ソーシャルビジネスコンテストを 活用した未来のトップランナーの育成～	440名	200万円
2024	熊本県立小国高等学校	熊本県阿蘇郡	小国の未来をつくる!OGUNI-GOプロジェクト ～ふるさと納税返礼品を活用した地域貢献型カタログギフト～	37名	150万円
2024	熊本県立熊本高等学校*	熊本県熊本市	共創とイノベーションの融合:STEAM教育エコシステム ～私の探究から、私達の探究へ～	1,200名	200万円
2024	大分県立安心院高等学校	大分県宇佐市	小中高一貫教育を活かした 安心院高校グローバルマインド育成プログラム	185名	200万円
2024	大分県立久住高原農業高等学校	大分県竹田市	次代の農業を担う“進”農業人育成プログラム ～創る力、繋がる力、拓く力の習得・向上を目指した探究学習の推進～	87名	100万円
2023	宮崎県立宮崎大宮高等学校	宮崎県宮崎市	「大地に絵をかく」イノベーターを育成する教育プログラムの研究開発 ～多様な人びとと協創するグローバル・イノベーター～	1,080名	200万円

採択年度	組織名	所在地	教育プログラム名	採択時対象者数	助成額
2025	宮崎県立高鍋高等学校	宮崎県児湯郡	高鍋高校の探究学習発展を目的とした インド工科大学との共創プログラム	566名	200万円
2025	宮崎県立日南高等学校	宮崎県日南市	未来戦略課・Nichinan Project 2.0	224名	200万円
2023	鹿児島県立徳之島高等学校	鹿児島県大島郡	徳之島「共育」プロジェクト	245名	200万円
2023	鹿児島県立奄美高等学校	鹿児島県奄美市	「結」島の未来は、わたしたちがつなぐ。	378名	200万円
2023	鹿児島県立曾於高等学校	鹿児島県曾於市	中高大・広域・地域の連携による地域社会を先導する 人材育成プロジェクト「曾於みらい塾」 ～曾於地区における創造的人材の育成を目指して～	130名	200万円
2025	鹿児島県立大島高等学校	鹿児島県奄美市	地域づくりフィールドワーク	240名	100万円
2023	沖縄県立与勝高等学校	沖縄県うるま市	よりよい社会を実現しようとする態度を育成する 「よかたんプロジェクト」	142名	97万円
2024	沖縄県立開邦高等学校	沖縄県島尻郡	開邦雄飛 一自ら育ち、自走する集団の育成プログラム	480名	200万円

※リエントリー…グッドプラクティスの普及・横展開を目的に、3年間の助成終了となったプログラムの一部をリエントリー採択として新たな助成を行うもの。 カテゴリー1助成額計3億2930.3万円

## カテゴリー 2

組織名五十音順

採択年度	組織名	所在地	教育プログラム名	採択時対象者数	助成額
2023	一般社団法人i.club*	東京都渋谷区	innovationGO ～全国各地とつながり、未来をつくる、 オンライン探究プラットフォーム～	300名	850万円
2023	国立大学法人愛知教育大学	愛知県刈谷市	フェイクニュース時代のメディア情報リテラシーを育成する 産・学・高校生協同プログラム	240名	277万円
2025	株式会社イツノマ	宮崎県児湯郡	自分たちのまちは、自分たちで創る まちづくり×起業家教育×映像発信	100名	948万円
2025	一般社団法人InnoDrops	佐賀県唐津市	みらいの起業家と一緒にイノベーションを起こす (1)STEAMDAYS!!(2)SAND lab	170名	985.2万円
2023	一般社団法人ELAB*	東京都港区	「未来を描くプログラム」 ～未来を創り出す力を育むアートによる学びのプログラム～	1,200名	650万円
2023	NPO法人ETIC.*	東京都渋谷区	ワンダリングチャレンジ ～3人1組で挑み、競う、ゲーミフィケーション型探究学習	3,000名	550万円
2025	NPO法人MIS	東京都文京区	Japan-ASEAN Youth Summit 2026	100名	1,000万円
2025	一般社団法人AWESOME	兵庫県神戸市	AWESOME Challenge～理系の世界で未来を描く探究プログラム～	80名	535.7万円
2025	学校法人沖縄科学技術大学院 大学学園	沖縄県国頭郡	昆虫バイオサンプリング研究 ～高校生×昆虫データベース研究プロジェクト、 データでつなぐ沖縄の未来～	50名	791.8万円
2024	一般社団法人 Girls Unlimited Program	東京都板橋区	Girls Unlimited Program: 体験格差を解消するエンパワメントプログラム	300名	370万円
2023	認定特定非営利活動法人 キッズドア	東京都中央区	大学で学ぶIT&デザインプログラム(IFUTO)	60名	868.8万円
2024	株式会社教育と探求社	東京都千代田区	「私の願い」を呼び起こし、探究を駆動させる「CORE」	800名	900万円
2024	一般社団法人KURUMIRAI	熊本県菊池郡	『高校生が作るギフト』	900名	500万円
2024	KCJ GROUP 株式会社	東京都中央区	「Future Life Design Lab」 キッズニアとアントレプレナーシップ教育の専門家が創る キャリア教育プログラム	100名	888万円
2023	一般社団法人 国際STEM学習協会	神奈川県鎌倉市	FAB QUEST (ファブクエスト) 「つくる」ことを通じて私、私たち、社会とつながるプログラム	100名	837.7万円

採択年度	組織名	所在地	教育プログラム名	採択時対象者数	助成額
2025	一般社団法人 国際STEM学習協会	神奈川県鎌倉市	FABRICA! ファブリカ 中高生の居場所×次世代ファッションテックで、新たな自分を発見する!	100名	880万円
2024	一般社団法人52Hz	京都府京都市	中高生が自分らしくグローバルに輝くために 探究活動を加速させる伴走プログラム【52Hz Accelerator】	500名	566.6万円
2023	株式会社しくみデザイン	福岡県福岡市	プログラミングでクリエイティブする 探究機会創出+強み発見プログラム 未来をクリエイティブする人材を育成するプログラム『みらくり』	240名	690.8万円
2023	特定非営利活動法人 しずおか共育ネット	静岡県静岡市	SERENDIPITY—SHIZUOKA TANKYU COLLECTION	1,000名	400万円
2023	一般社団法人次世代教育・産官学民連携機構	東京都中央区	公立高校の「Collaborative Impact on Education」	640名	192万円
2023	青楓館	兵庫県明石市	高校生の「社会で生きる力」を育む 自治体・企業連携型Project Based Learning	100名	818万円
2025	認定NPO法人 全国子ども食堂 支援センター・むすびえ	東京都渋谷区	子ども食堂・学校架け橋プロジェクト 「子ども食堂を通じた地域探究学習」プログラム	160名	568万円
2024	特定非営利活動法人 育て上げネット*	東京都立川市	若者の孤立無業化予防のためのキャリア教育プログラム Life Connection	4,500名	424.5万円
2024	特定非営利活動法人 Touch the Future	東京都調布市	(1)Touch the Future高校生向け医療体験学習 (2)DoctorX!ハイブリッド・ミーティング	230名	606万円
2023	株式会社トゥワイス・リサーチ・インスティテュート	東京都中央区	高校生が、人工知能・ロボット工学をはじめとする 次世代技術による創造的な未来を 自分の言葉で語れるようになる体験型探究プログラム	1,000名	1,000万円
2024	株式会社トモノカイ	東京都渋谷区	自由すぎる研究EXPOと連動した、 国際映画祭接続型、映像ドキュメンタリー制作プログラム	500名	500万円
2023	一般社団法人 日本金融教育支援機構	東京都中央区	FESコンテストによるワークショッププログラム	150名	360万円
2023	NPO法人 日本ファンドレイジング協会*	東京都港区	寄付とウェルビーイングを体感する日本初の 寄付版SDGカードゲーム「from Me」プログラム	8,000名	500万円
2023	一般社団法人パラメンタリー ディベート人育成協会	大阪府堺市	人工知能を用いた即興型ディベート能力開発プログラム ～他者への想いを馳せよう～	300名	510万円
2025	株式会社BYD	東京都台東区	「ふるさと」を起点にした 価値創造型アントレプレナーシッププログラム	100名	700万円
2025	北海道松前郡福島町 教育委員会	北海道松前郡	高校生が創る!地球の未来と新しい学び 環境と教育問題を変えたい仲間大集合! みんなの想いをカタチにしよう。	16名	157万円
2024	一般社団法人病院 マーケティングサミットJAPAN	東京都新宿区	ワカモノ未来共創部 ～自分たちのアイデアで病院や暮らしの現場を変えてみよう!～	100名	890万円
2024	一般社団法人未来キッズ コンテンツ総合研究所*	東京都港区	全国高校AIアスリート選手権大会 シンギュラリティ・バトルクエスト(特別支援学校強化プログラム)	50名	400万円
2024	NPO法人Leapfor	東京都港区	越境型部活動「体感」と「創設」支援プログラム	200名	1,000万円
2024	特定非営利活動法人Waffle	東京都渋谷区	Waffle Campホームタウン ～日本全国で女子中高生の理系的経験の格差を解消する～	200名	881.9万円

※リエントリー…グッドプラクティスの普及・横展開を目的に、3年間の助成終了となったプログラムの一部をリエントリー採択として新たな助成を行うもの。 カテゴリー2助成額計2億2,997万円

カテゴリー 3

採択年度	組織名	所在地	教育プログラム名	採択時対象者数	助成額
2024	学校法人麻布獣医学園 麻布大学	神奈川県相模原市	麻布「出る杭を引き伸ばす」プログラム	150名	500万円
2023	一般社団法人 inochi未来プロジェクト*	大阪府大阪市	inochi Gakusei Innovators' Program	280名	700万円
2023	国立大学法人 愛媛大学	愛媛県松山市	「学チャレ合同会社」を基盤とする 地域活用アントレプレナーシップ育成プログラム	50名	1,000万円

組織名五十音順

採択年度	組織名	所在地	教育プログラム名	採択時対象者数	助成額
2023	国立大学法人 大阪大学*	大阪府吹田市	大阪大学の教育研究力を活かしたSEEDSプログラム ～未来を導く傑出した人材発掘と早期育成～	160名	1,000万円
2023	加速キッチン合同会社*	宮城県仙台市	次世代放射線探究活動 ～検出器を製作し・放射線を測定する～	200名	800万円
2024	特定非営利活動法人 教育の環	東京都目黒区	世界への挑戦を継承し、若者たちの挑戦の連鎖を生む グローバルイノベーター育成プログラム「Global Innovators Nexus」 (グローバル イノベーターズ ネクスス)	100名	300万円
2025	国立大学法人神戸大学	兵庫県神戸市	科学技術みらい開拓人材育成プログラム: Nurturing Future Innovators	40名	700万円
2023	公益財団法人 国際文化会館	東京都港区	ルールを変える「若手政策起業家」育成プログラム	160名	1,000万円
2023	国立大学法人 筑波大学*	茨城県つくば市	未来を切り拓くフロントランナー育成プログラム・筑波大学GFEST (Global Front-runner in Engineering, Science & Technology)	40名	1,000万円
2024	国立大学法人 東京科学大学	東京都目黒区	女子STEAM生徒の未来チャレンジ 「みらいの扉キャンプ・みらいの扉ピジット」	2,550名	1,500万円
2025	国立大学法人 東京大学生産技術研究所	東京都目黒区	デザインで未来をつくる: 高校生のためのデザイン先導イノベーション教育プログラム	40名	1,000万円
2023	国立大学法人 東京農工大学	東京都府中市	GXを推進するグリーン・スキルを備えたGXリーダーを養成する 「GXサイエンスキャンプ(Green Transformation Science Camp)」	144名	1,200万円
2024	東北大学*	宮城県仙台市	東北から世界へ みらい型「科学者の卵養成講座」 ～集え、異質な高校生よ。創れ、未来の理想社会を～	100名	985万円
2023	株式会社トゥワイス・リサーチ・インスティテュート	東京都中央区	国内実施の教育イベントに出場して優秀な成績を修めた 高校生が、学校の枠を超えてチームを結成し、 1年間で3分野の課題解決に取り組む高校選抜探究リーグ	50名	600万円
2023	国立大学法人 徳島大学	徳島県徳島市	徳島大学 次世代産業人材創出プログラム ～起業という世界を知り、体験し、実践する～	150名	1,260万円
2024	独立行政法人 国立高等専門学校機構 長岡工業高等専門学校	新潟県長岡市	地域DXエバンジェリスト創出プログラム ～高専生がデザインする地域未来～	50名	1,180.6万円
2025	東海国立大学機構 名古屋大学 学術研究・産学官連携推進本部 イノベーション・アントレプレナーシップ推進室	愛知県名古屋	未来のインパクト創出に挑戦する社会的起業家の卵 「インパクト・アントレプレナー」発掘・育成プロジェクト	300名	500万円
2024	一般社団法人 日本スローフード協会	東京都中央区	次代の食料生産を担う「ガストロノーム」発掘・育成	35名	400万円
2023	三重大学	三重県津市	メタバース有造館～文理融合イノベーション創出プログラム～	80名	500万円
2025	武蔵野美術大学	東京都新宿区	Project Tangible ～デザインのチカラで高校生の探究活動を次のステージへ～	50名	1,000万円

※リエントリー…グッドプラクティスの普及・横展開を目的に、3年間の助成終了となったプログラムの一部をリエントリー採択として新たな助成を行うもの。 カテゴリー3助成額計1億7,125.6万円

カテゴリー 4

採択年度	組織名	所在地	教育プログラム名	採択時対象者数	助成額
2024	愛知県公立大学法人 愛知県立大学*	愛知県長久手市	愛県大教養教育新カリキュラム:「県大世界あいち学」 -地域・高大連携強化へ-	760名	329.6万円
2023	上田短期大学	長野県上田市	「デザインの学び」の開発:今日の大学教育の中心をなす 「知る」学びと芸術やデザイン分野で培われた 「行う(表現する)」学びを組み合わせる営み	300名	180万円
2023	大分県立芸術文化短期大学	大分県大分市	デジタル教材づくり参加型教養教育プログラム ～高校生向け「情報」用アニメ教材シリーズの制作～	30名	150.5万円
2023	大阪公立大学 国際基幹教育機構 高度人材育成推進センター	大阪府堺市	転換期の社会に求められる力を培うための 産学連携型教育プログラム:QBIC ～Question Based Innovation and Career education program for societal transition～	80名	235万円

組織名五十音順

採択年度	組織名	所在地	教育プログラム名	採択時対象者数	助成額
2024	大阪大学*	大阪府吹田市	「対話」で開く「学問への扉」 ～少人数セミナー型初年次導入科目の挑戦～	3,400名	400万円
2025	岡山大学教育推進機構 外国語教育部門	岡山県岡山市	多読と対話による学びのコモン創出プログラム ～図書館を拠点に学生と地域が共に学び、未来を拓く～	160名	159.8万円
2023	国立大学法人 金沢大学	石川県金沢市	未来デザインプラクティス ～自分と未来は変えられる!～	60名	190万円
2023	関西大学	大阪府吹田市	「ごちゃまぜ協働」によるソーシャル・ アントレプレナーシップ育成プログラム(SEJumCoプログラム)	120名	226.3万円
2023	国立大学法人九州工業大学	福岡県北九州市	九州工業大学アントレプレナーシップ教育プログラム ～未来思考キャンパスで、自分らしさを探求し、 社会に価値を創出するアントレプレナーを目指そう!～	60名	120万円
2024	公立大学法人熊本県立大学	熊本県熊本市	もやいすと育成システムによる地域性と国際性を併せ持つ 地域づくりのキーパーソン「もやいすと」の養成	535名	250万円
2024	一般財団法人熊本市 国際交流振興事業団	熊本県熊本市	多文化共創ボランティア・ラーニング ～グローバル・シチズンシップを持てる人材の育成支援～	170名	281万円
2023	神戸大学大学院人間発達 環境学研究所ヒューマン・ コミュニティ創成研究センター	兵庫県神戸市	異質な当事者性の交差を生むグローバル・ボランティアツアー・ プログラムの開発～持続可能な社会づくりに向けての ユースのエンパワメントを目指して～	70名	248万円
2025	国際基督教大学	東京都三鷹市	想定を超える世界にどう応えるのか:「現代×リベラルアーツ」 ～現代の諸課題に立ち向かうための新たな 実践型リベラルアーツ教育プログラムの創生～	400名	340万円
2025	駒澤大学	東京都世田谷区	Join 禅プログラム～禅のこころでつなぐ世界と地域～	100名	236.8万円
2024	公立大学法人埼玉県立大学	埼玉県越谷市	多層的・分野横断的な批判的対話実践プログラム ～教員・SA・学生の協働で知を織り上げる～	300名	135.9万円
2023	埼玉大学	埼玉県さいたま市	HiSEP-Mirai (ハイグレード理数教育プログラム-問題発見・解決力育成シリーズ)	180名	348.3万円
2024	滋賀大学	滋賀県彦根市	「未来創生リベラルアーツプログラム」 ～学生とともにデザインする 「リベラルアーツ×データサイエンス」教育～	790名	400万円
2024	順天堂大学	東京都文京区	レッツMEdit Q!「医学をみんなでゲームする」 ～シリアスゲーム開発で社会と医療を変える 21世紀型STEAM教育カリキュラム～	200名	150万円
2024	昭和医科大学 ストレスマネジメント研究所	東京都品川区	課題解決できる医師を育成するための教養教育プログラム: 新しい「行動医学」教育	240名	240万円
2025	国立大学法人千葉大学 国際未来教育基幹 高等教育センター	千葉県千葉市	予測不可能な時代の環境課題解決人材育成プログラム ～学生主体の環境マネジメントシステムと 全学副専攻プログラムを活用した実践型教育の推進～	400名	300万円
2025	国立大学法人筑波大学	茨城県つくば市	研究学園都市全体で構築する人材育成・交流モデルの提案 ～つくば型チュートリアル学修の実装による知の連鎖と循環～	60名	100万円
2024	国立大学法人東京科学大学 リベラルアーツ研究教育院	東京都目黒区	「志」を育む東京工業大学(東京科学大学) リベラルアーツ教育プログラムの発展 ～専門性をもった文理共創人材の育成を目指して～	2,715名	400万円
2023	東京家政大学	東京都板橋区	基礎教養科目から形成する人と信頼関係を築く 多角的コミュニケーション力	160名	160万円
2024	東北大学*	宮城県仙台市	挑創カレッジと学問論でつむぐ 分野横断型リベラルアーツプログラム	2,400名	358.9万円
2024	東北大学 研究推進・支援機構 知の創出センター	宮城県仙台市	東北大学知のフォーラム「未来社会デザイン塾」 ～一人が集い、共に学び、創造する～	200名	150万円
2025	徳島文理大学 人間生活学部児童学科	徳島県徳島市	「人間力」の育成:子どもの学び支援実習における 社会性と情動の学習(SEL)	80名	200万円
2024	豊橋技術科学大学総合教育院	愛知県豊橋市	異分野対話型リベラルアーツ教育の構築 ～知的創造の場の創出と体験～	440名	100.2万円
2025	公立大学法人 長野大学	長野県上田市	障害当事者と学生・教員・行政・地域が協働して創る主権者教育 (「私のみらい選択」)を通じて、DEI(多様性・公平性・包摂性)社会の 実現を目指す未来志向型プログラム ～「問いと選択」「弱さへのまなざしと共感」プログラム～	50名	147.4万円

採択年度	組織名	所在地	教育プログラム名	採択時対象者数	助成額
2024	名古屋経済大学	愛知県犬山市	中部地方内陸地域の地域創生を担う人材を育成する 実践的教養教育プログラム ～学部を横断する課題志向のサブスペシャリティ!～	500名	300万円
2025	奈良国立大学機構奈良 カレッジ連携推進センター	奈良県奈良市	万葉集を起点とした地域振興×教育の融合による 対話型協働学習プログラム ～自省・傾聴・共創が紡ぐ学びのイノベーション	350名	250万円
2024	国立大学法人 新潟大学*	新潟県新潟市	新潟大学ダブルホームー地域と創る新たなふるさと	360名	150万円
2025	法政大学	東京都千代田区	温暖化から地球の明日を守る人材を育成する 正課・正課外教育融合プログラム ～C-NEXTプログラム～ (Carbon-Neutral Education Transformation for Tomorrow)	100名	170万円
2024	北海道科学大学	北海道札幌市	北海道科学大学・課題解決力育成プログラム ～デジタル社会の総合知と異分野協働に基づく地域課題への挑戦～	1,984名	305万円
2024	武蔵野大学教育学部	東京都江東区	幼児教育プロジェクト:学生・教員・子ども・地域が協働して 幼児教育・保育の視点から社会を変革する教育プログラム	50名	57万円
2025	山形大学	山形県山形市	地域の課題と魅力を山形から考える ～地域創生を目指した持続可能な教養教育～	1,663名	505万円
2023	公立大学法人 山口県立大学	山口県山口市	全学科混成チームで地域課題解決のアイデアを創出する 「やまぐち未来デザインプロジェクト」	323名	212.5万円
2024	国立大学法人山梨大学	山梨県甲府市	実践! 風林火山:VUCA時代に生きる学生のための 教養教育「シン・ナンダイ」	850名	401万円

※リエントリー…グッドプラクティスの普及・横展開を目的に、3年間の助成終了となったプログラムの一部をリエントリー採択として新たな助成を行うもの。 カテゴリー4助成額計 8888.2万円

カテゴリ 5

組織名五十音順

採択年度	組織名	所在地	教育プログラム名	採択時対象者数	助成額
2025	Institution for a Global Society株式会社	東京都渋谷区	先生自身が楽しむ!探究型学習実践プログラム	200名	674.4万円
2023	一般社団法人ウィルドア	神奈川県川崎市	「わたしから始まる学び」を課外の資源に繋げ、促進する 学びの「ナビゲーター」研修プログラム	35名	980万円
2025	桜美林大学	東京都町田市	越境する教育パートナーシップを育成する 認定型研修プログラム「Bridge」	40名	801万円
2024	認定特定非営利活動法人 カタリバ	東京都杉並区	高校生に意欲と創造性を届けるための「伴走力向上」と 「校内推進体制づくり」を目指した伴走型研修	30名	680万円
2025	一般社団法人 共感結社モルタル	長崎県佐世保市	教員・地域伴走者版 地域探究体感・実践プログラム	30名	684万円
2024	株式会社3in	山口県長門市	先生による探究学習・起業家教育体験プログラム	100名	850万円
2023	学校法人昭和女子大学 現代教育研究所	東京都世田谷区	先生による、先生のための、先回り研修プログラム(略称:先3) ～4つのチカラでミライを自作自走する先生コミュニティの創出～	100名	929.5万円
2024	一般社団法人ティーチャーズ・ イニシアティブ*	東京都千代田区	「主体的・協働的な学び」を実践できる 教員養成のための指導主事研修プログラム	20名	486.5万円
2024	国立大学法人 東京学芸大学*	東京都小金井市	探究的な学びの実践コミュニティ拡大支援プログラムの開発	1,200名	1,000万円
2025	東京大学大学院 教育学研究科附属学校教育 高度化・効果検証センター	東京都文京区	高等学校において生徒の個人研究型探究学習を指導する 教員の育成開発	50名	865万円
2023	名古屋大学 大学院教育発達科学研究科	愛知県名古屋市	探究的な学びを通じて個性的で自立的な生徒を育成する 教師の洞察力と構想力の育成	200名	917万円
2024	一般社団法人 Bridge for Fukushima	福島県福島市	「ケースメソッド」を用いた主体的・協働的な学習を 実践できる教員・指導者育成プログラム	200名	665.9万円
2024	株式会社ミエタ	東京都港区	実社会に存在する問いの解決に挑戦する『社会行動』型教科学習の 授業計画を担う探究コーディネーター育成およびコミュニティ創出	90名	820万円

※リエントリー…グッドプラクティスの普及・横展開を目的に、3年間の助成終了となったプログラムの一部をリエントリー採択として新たな助成を行うもの。 カテゴリー5助成額計 1億353.3万円

## 貸借対照表 2025年3月31日現在

(単位：千円)

科目	当年度	前年度	増減
<b>I 資産の部</b>			
<b>1. 流動資産</b>			
現金預金	475,277	638,910	▲163,633
未収金、前払金、前払費用等	38,680	56,263	▲17,582
流動資産合計	513,958	695,173	▲181,215
<b>2. 固定資産</b>			
その他固定資産	9,681	12,037	▲2,356
固定資産合計	9,681	12,037	▲2,356
資産合計	523,638	707,210	▲183,572
<b>II 負債の部</b>			
流動負債(未払金、未払費用等)	17,879	23,465	▲5,586
負債合計	17,879	23,465	▲5,586
<b>III 正味財産の部</b>			
<b>1. 指定正味財産</b>	0	0	0
<b>2. 一般正味財産</b>	505,759	683,745	▲177,986
正味財産合計	505,759	683,745	▲177,986
負債及び正味財産合計	523,638	707,210	▲183,572

## 正味財産増減計算書 2024年4月1日から2025年3月31日まで

(単位：千円)

科目	当年度	前年度	増減
<b>I 一般正味財産増減の部</b>			
<b>1. 経常増減の部</b>			
(1) 経常収益			
受取寄付金	1,010,000	1,010,000	0
その他経常収益	695	419	276
経常収益計	1,010,695	1,010,419	276
(2) 経常費用			
事業費	1,168,317	1,089,489	78,827
支払助成金	920,591	892,047	28,544
人件費	23,233	23,463	▲230
その他事業費	224,493	173,980	50,513
管理費	25,052	24,673	379
人件費	12,506	11,498	1,008
その他管理費	12,547	13,175	▲628
経常費用計	1,193,369	1,114,162	79,207
<b>2. 経常外増減の部</b>			
(1) 経常外収益計	4,688	0	4,688
(2) 経常外費用計	0	0	0
当期一般正味財産増減額	▲177,986	▲103,744	▲74,242
一般正味財産期首残高	683,745	787,489	▲103,744
一般正味財産期末残高	505,759	683,745	▲177,986
<b>II 指定正味財産増減の部</b>			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
<b>III 正味財産期末残高</b>	505,759	683,745	▲177,986

## ● 評議員・役員

## 評議員

- 小野 直樹  
(三菱マテリアル株式会社 取締役会議長)
- 清家 篤  
(日本赤十字社 社長)
- 高岡 英則  
(三菱金曜会 事務局長)
- 高橋 裕子  
(津田塾大学 学長)
- 田中 愛治  
(早稲田大学 総長)
- 長澤 仁志  
(日本郵船株式会社 取締役会長)
- 長島 巖  
(三菱UFJ信託銀行株式会社 取締役会長)
- 永田 恭介  
(筑波大学 学長)

## 理事長

- 宮永 俊一  
(三菱重工業株式会社 名誉顧問)

## 常務理事

- 妹背 正雄

## 理事

- 笹のぶえ  
(大妻女子大学 特任教授)
- 七條 博明  
(公益財団法人 三菱財団 常務理事)
- 篠原 聡子  
(日本女子大学 学長)
- 鈴木 寛  
(東京大学教授、慶應義塾大学特任教授)
- 野島 嘉之  
(三菱商事株式会社 代表取締役 常務執行役員)
- 濱 利仁  
(キリンホールディングス株式会社 常務執行役員)
- 福井 賢二  
(明治安田生命保険相互会社 常務執行役員)

## 監事

- 三宅 茂久  
(税理士法人 山田&パートナーズ 統括代表社員)

## ● アドバイザリーボード委員

- 鶴尾 雅隆  
(特定非営利活動法人 日本ファンドレイジング協会 代表理事)
- 立木 貴文  
(長崎大学 未来教育創造センター教授)
- 西村 圭一  
(東京学芸大学 大学院教育学研究科 教授・学長補佐)
- 藤村 武宏  
(三菱商事株式会社 執行役員総務部長)
- 古沢 由紀子  
(読売新聞東京本社 編集委員)
- 松尾 豊  
(東京大学大学院 工学系研究科 技術経営戦略学専攻 教授)
- 吉田 文  
(早稲田大学 教授)

※2025年6月30日現在(五十音順・敬称略)

## ● 組織概要

所在地  
東京都千代田区丸の内二丁目2番3号  
丸の内仲通りビル9階

設立日  
2019年10月1日

事業内容  
教育プログラムや教育事業者への助成、事業活動のサポート

事業期間  
2019年10月1日～2031年3月31日まで(予定)

総事業費  
約100億円

お問い合わせ先  
info@mmfe.or.jp

発行：2025年9月

制作協力/株式会社エム・シー・コミュニケーションズ

デザイン/株式会社弾デザイン事務所



Mitsubishi Memorial Foundation for Educational Excellence



一般財団法人

三菱みらい育成財団

[www.mmfe.or.jp](http://www.mmfe.or.jp)

〒100-0005 東京都千代田区丸の内二丁目2番3号  
TEL:03-6206-3435 / FAX:03-6206-3436

